

小樽市経済動向調査結果

1. 調査期間：2024年10月から12月
2. 調査対象：小樽市内の企業264社
3. 内 訳：製造業56、卸売業27、小売業44、運輸・倉庫業20、観光業45
サービス業39、建設業33
4. 回答企業数：153社（58.0%）
5. 調査方法：調査票によるアンケート

※DI（景気動向指数：ディフュージョン・インデックス）とは・・・

好転（増加）企業割合から悪化（減少）企業割合を差し引いた値のことで、この数値がプラスかマイナスか、そしてその大きさによって景気の動きを時期的な推移の中で把握します。

概 況

－主要3項目DI全てプラス、日本人客の減少と外国人客の増加顕著、約半数の企業で従業員不足－
前年同期（2023年10月～12月）と比べた今期（2024年10月～12月）の状況
今期と比べた来期（2025年1月～3月）の予想

企業の景況感を示す業況判断DIは17.2で、前年同期と比べ0.2ポイント上昇しました。業況DIは10期連続、売上DIは11期連続プラス水準で推移し、採算DIは3期ぶりのプラス水準となりました。卸売業、運輸・倉庫業、観光業、サービス業は主要3項目DI全てがプラスとなりました。原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が主な課題で、46.4%の企業で従業員が不足しています。

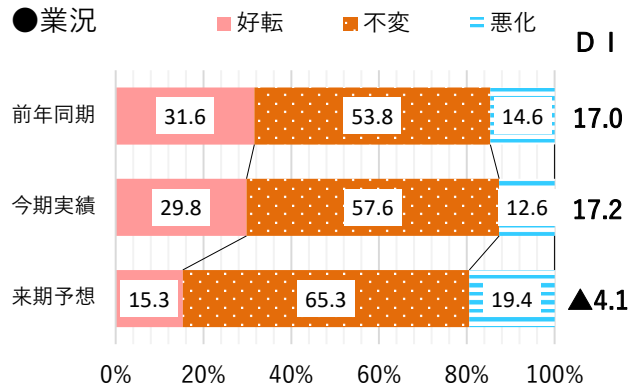
業種別業況DIは、製造業が同14.6ポイント低下の3.3となりました。主要3項目DI全てが低下し、採算DIはマイナスとなりました。食品の89%、プラスチックの全社で原材料価格が上昇しました。金属加工の63%で従業員が不足しています。卸売業は同2.4ポイント上昇の23.5となりました。売上DIは28.5ポイント低下したものの、プラス水準を維持しました。食料・飲料の全社が適正人員を確保できており、80%で業況、売上、採算が不変と、堅調に推移しました。小売業は同4.0ポイント上昇の31.3となりました。売上DIが62.5ポイントと大幅に低下し、マイナスとなりました。大型店やコンビニを含む食料品を扱う企業では、83%で商品仕入単価が上昇しましたが、売上、採算、業況が悪化した企業はありませんでした。自動車では全社で従業員が不足しています。運輸・倉庫業は同19.9ポイント上昇の13.3となりました。道路旅客運送は75%で売上が増加しましたが、全社で従業員が不足しています。道路旅客運送では75%が、道路貨物運送と倉庫では66%がサービス単価を引き上げました。観光業は同20.3ポイント低下の23.4となりました。宿泊は50%の企業で客数が減少し、日本人客が減少した企業が60%、外国人客が増加した企業が60%と特徴的な傾向が見られました。サービス業は同14.8ポイント低下の5.2となりました。売上DIと採算DIに大きな変化はありませんでした。ビルメンテナンスの全社で人材が不足しています。建設業は24.4ポイント上昇の20.0となりました。売上DIと採算DIも上昇し、主要3項目DI全てがマイナス水準を脱しました。業況は、一般土木工事業の42%が好転、58%が不変と回答しています。また、職別工事業は75%、設備工事業と造園業は全社が不変と回答しており、堅調に推移しました。

来期の業況判断DIは▲4.1で、業況がマイナスに転じると予想しています。業種を問わず、原材料価格や燃料費の高騰、従業員不足が懸念されます。閑散期にあたる企業を中心に、景況感は低調な推移となる見込みです。観光業では引き続き客数の増加傾向の鈍化、日本人客の減少と外国人客の増加が見込まれます。

業況、売上、採算

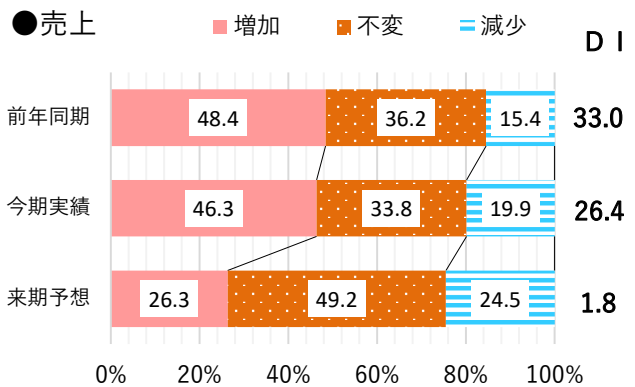
今期（2024.10～12）の業況判断DIは17.2で、前年同期(2023.10～12)と比べ0.2ポイント上昇しました。

来期（2025.1～3）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



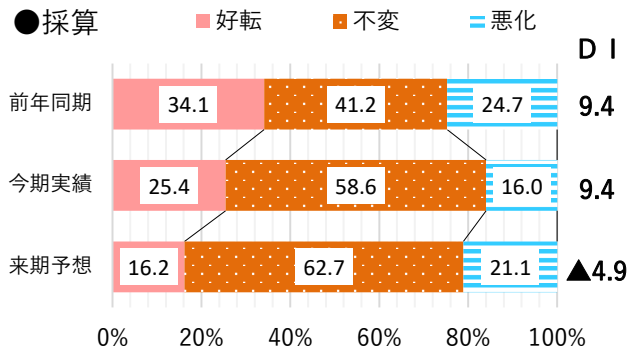
今期の売上DIは26.4で、前年同期と比べ6.6ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

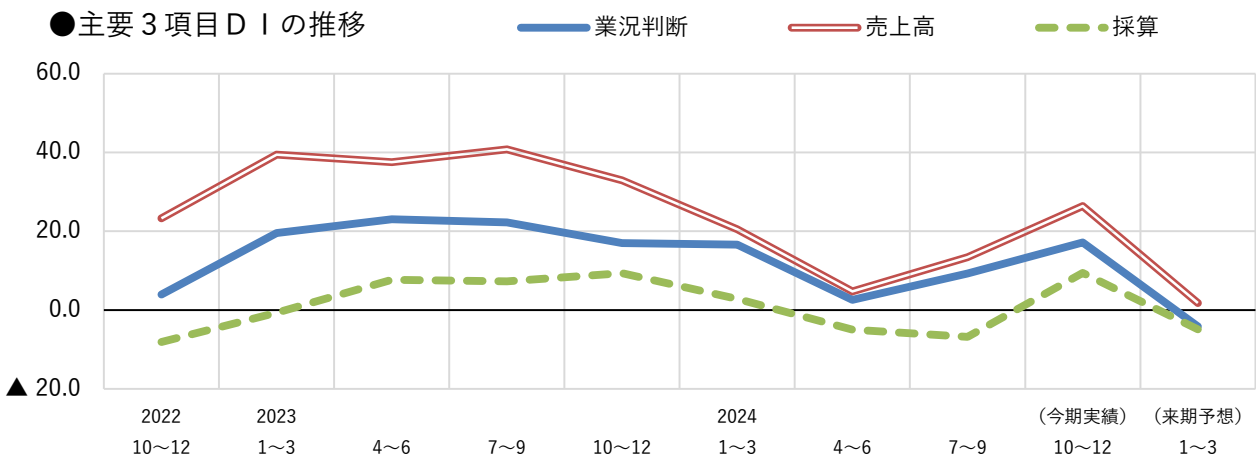


今期の採算DIは9.4で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



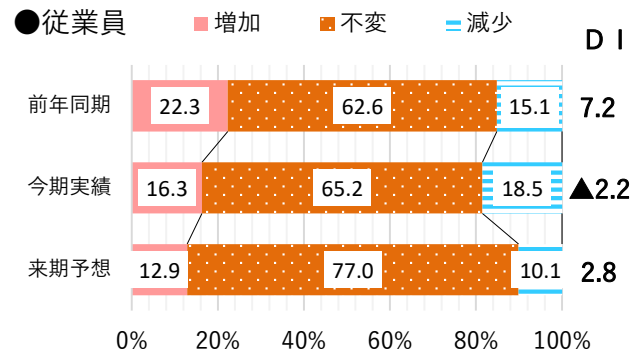
●主要3項目DIの推移



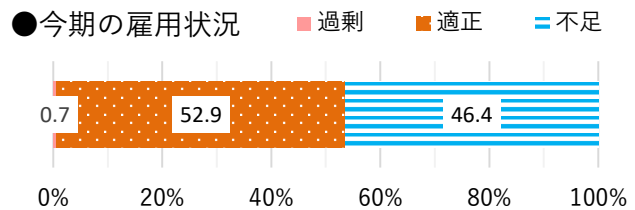
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲2.2で、前年同期と比べ9.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、従業員数が増加に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は0.7%、適正であると回答した企業の割合は52.9%、不足していると回答した企業の割合は46.4%でした。



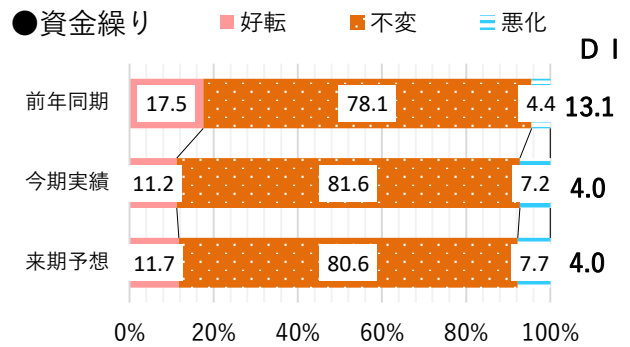
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、37.9%を占めました。46.4%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	18
	不足	10
不変だった	過剰	1
	適正	58
	不足	37
減少した	過剰	0
	適正	5
	不足	24

資金繰り、設備投資

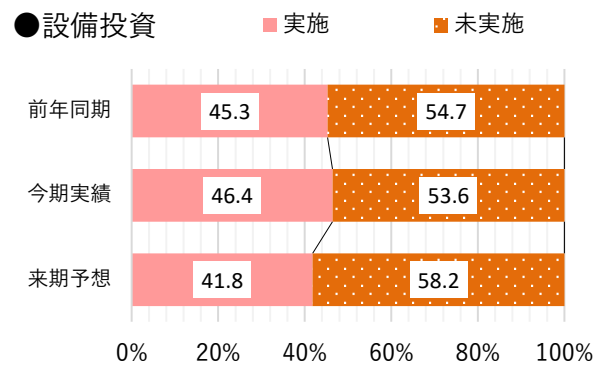
今期の資金繰りDIは4.0で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



新規設備投資の動向では、回答のあった153社の46.4%にあたる71社が実施、前年同期と比べ5.0%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具・輸送機材」、2位が「建物」の順です。

来期は、41.8%にあたる64社が設備投資を計画していると回答しています。

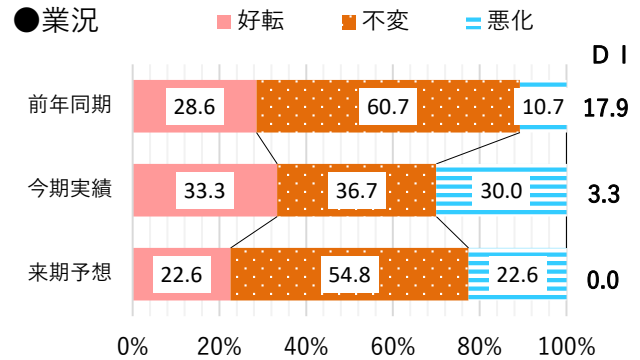


製造業

業況、売上、採算

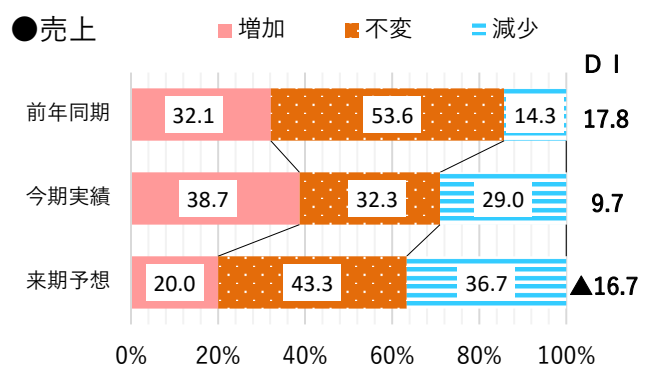
今期(2024.10~12)の業況判断DIは3.3で、前年同期(2023.10~12)と比べ14.6ポイント低下しました。

来期(2025.1~3)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



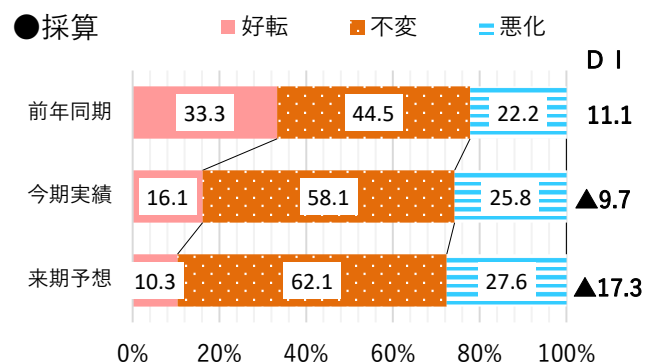
今期の売上DIは9.7で、前年同期と比べ8.1ポイント低下しました。

来期は、売上が減少し、マイナスに転じると予想しています。

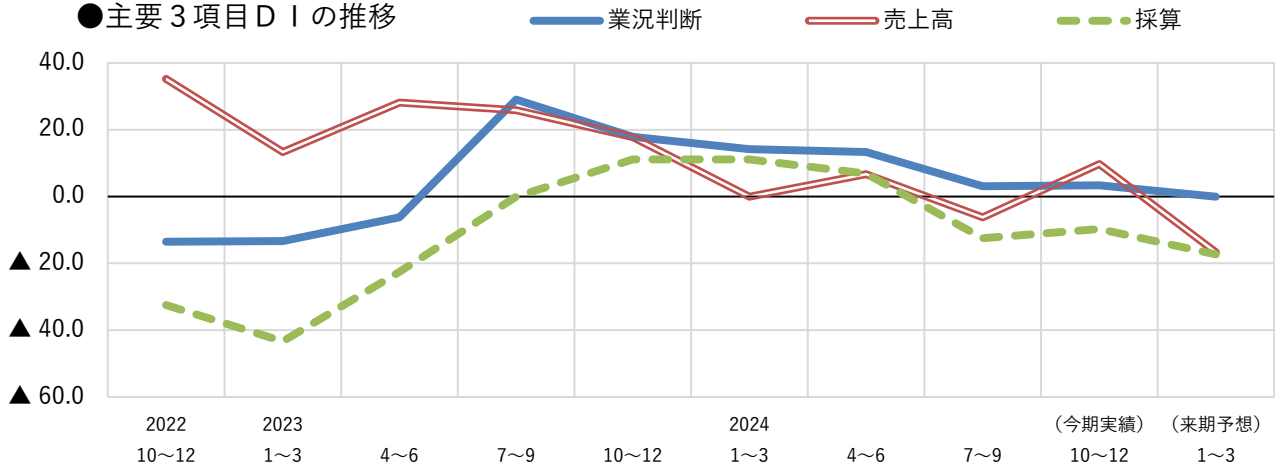


今期の採算DIは▲9.7で、前年同期と比べ20.8ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



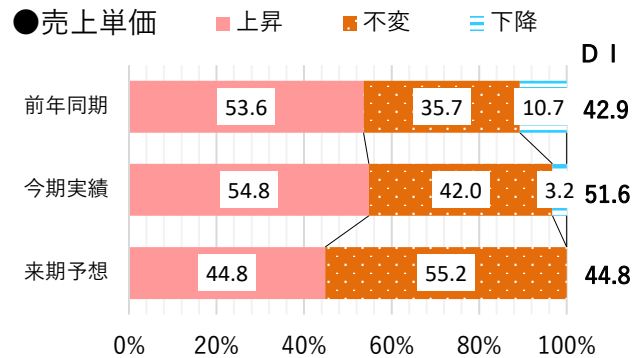
●主要3項目DIの推移



売上（加工）単価、原材料仕入単価、設備操業率

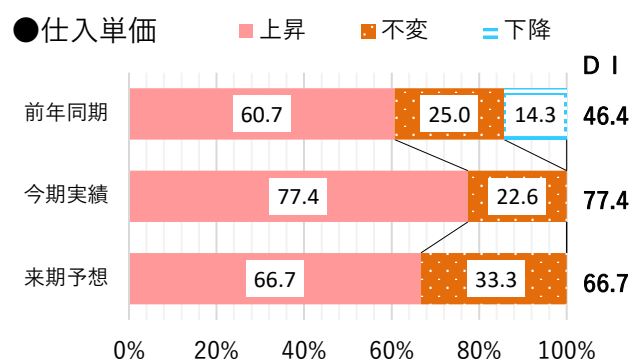
今期の売上単価DIは51.6で、前年同期と比べ8.7ポイント上昇しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が続くと予想しています。



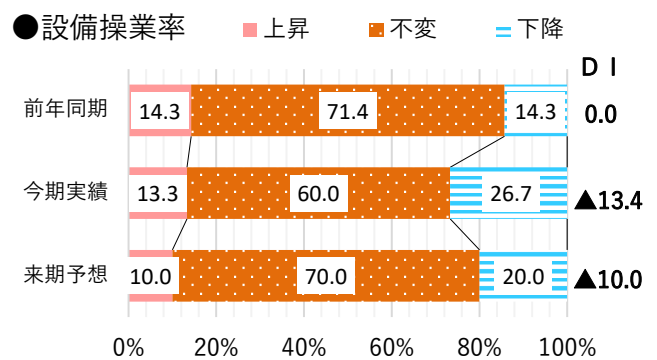
今期の仕入単価DIは77.4で、前年同期と比べ31.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の設備操業率DIは▲13.4で、前年同期と比べ13.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

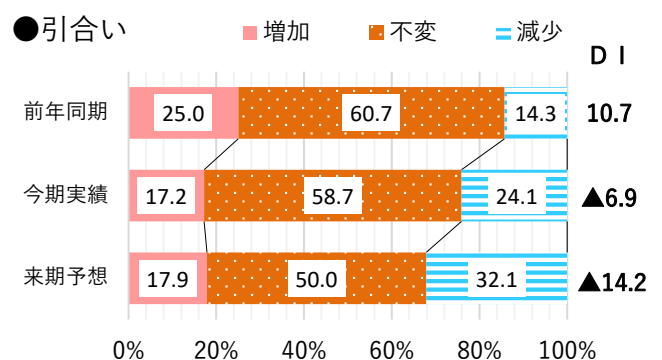
来期は、設備操業率に大きな変化はないと予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲6.9で、前年同期と比べ17.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

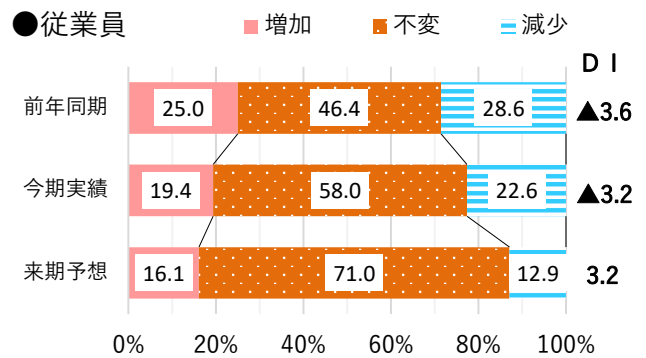
来期は、引合いの減少傾向が強まると予想しています。



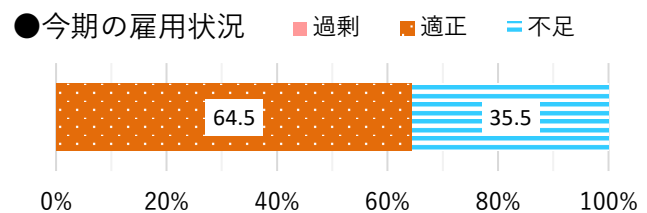
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲3.2で、前年同期と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期は、従業員数がプラスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.5%、不足していると回答した企業の割合は35.5%でした。



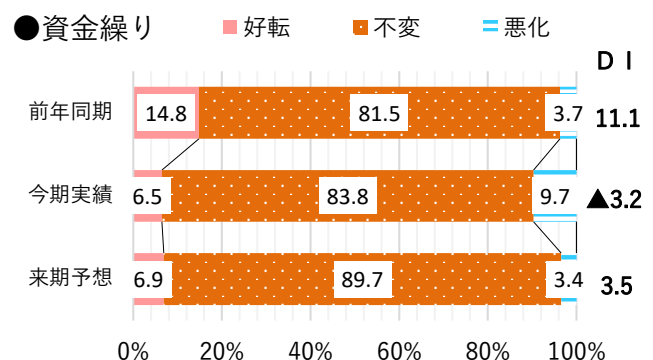
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは、38.7%を占めた「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答でした。35.5%の企業で従業員が不足している状況にあります。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	6
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	6
減少した	過剰	0
	適正	2
	不足	5

資金繰り、設備投資

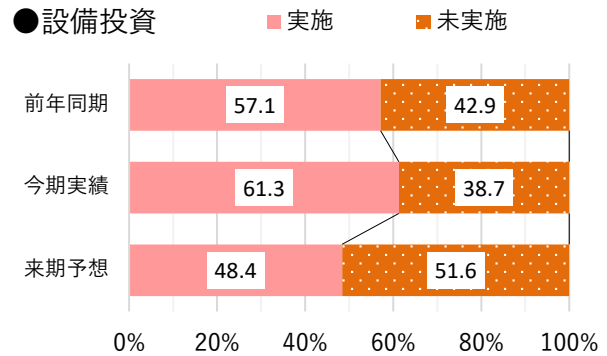
今期の資金繰りDIは▲3.2で、前年同期と比べ14.3ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの好転を予想しています。



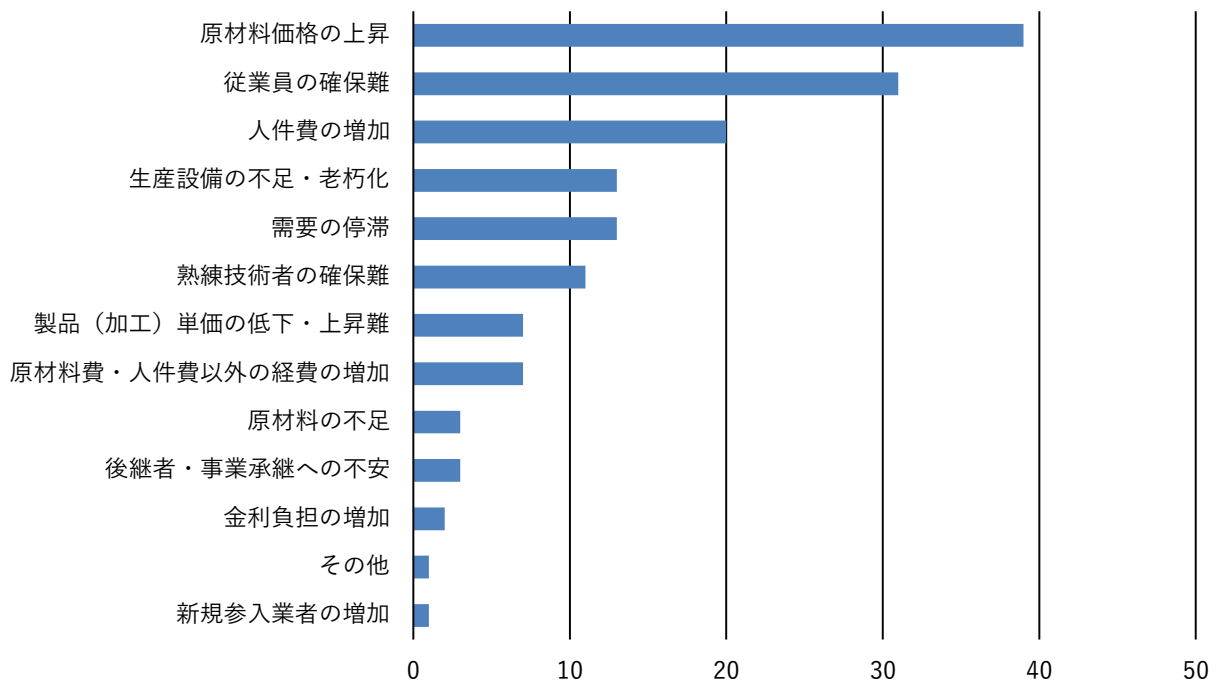
設備投資を実施した企業の割合は61.3%で、前年同期と比べ4.2%上昇しました。投資内容は、1位が「生産設備」、2位が「付帯施設」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は48.4%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「原材料価格の上昇」、2位が「従業員の確保難」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入価格、最低賃金、電気、燃料の価格上昇に、販売価格の改定を合わせる事が出来ないほど変化が激しい年だった。（食料品）
- 外国人需要を中心に回復し、売上は増えたが、国内向け販売がやや減少し、不安要素も多い。（食料品）
- 輸入原料は複数年に及ぶ円安の影響で高騰し、適正な販売価格の設定が困難な状況にある。（食料品）
- 前期までの売上は5.4億円だった。今期を含む売上は7億円を見込む。（食料品）
- 売上が増加した。人材確保が増産につながった。（食料品）
- 業況は好調を維持できると思われる。（食料品）
- 業況はコロナ禍の頃と比べて好調だ。（食料品）
- 不採算店舗を閉鎖した。（食料品）

- 人材が不足している。(食料品)
- 商品価格の改定に伴い、売上本数が減少した。(飲料)
- 販売数量の減少は、単価の改定でカバーできた。物件数の減少により、厳しい先行きになると思われる。世代交代をしたいので、人材を増やしたいが、人件費の総額を考慮しながら進める。(金属製品)
- 大型案件のほぼ全てが遅れ気味で、計画通りに事業が進まない。(金属製品)
- 従業員数が減少したが、設備の活用でカバーした。(金属製品)
- 売上が増加した。(金属製品)
- 第2四半期と同様に、冬物商戦となった今期も売上額を前年よりも大きく落とす結果となった。特に総ゴム靴の不振が止まらず、前年比で約3割減となった。また、工業用品部門は、前年比25%減となり、ここ数年にも及ぶ引合いおよび売上額の減少に歯止めがかからない。一方で、安全靴等の部門は前年比5%増と健闘している。(ゴム製品)
- 全体的に需要は伸びておらず、売上は前年同期比で減少した。製品の値上げを実施した結果、販売数量は減少した。円安の影響で、海外産の原料は高値で安定または上昇した。不足人員の補充はできており、12月に中途採用を2名確保した。最低賃金を改定した。4月以降に回収条件の短縮を行った結果、資金繰りは好転した。(プラスチック)
- 引合いは前年並で、売上等も変わりがなかった。(プラスチック)
- 最低賃金の引き上げに伴い、人件費が増加した。(プラスチック)
- 売上は増加したが、運賃等の費用が増加し、製品の値上げが追い付かず、採算が悪化した。(紙製品)
- 売上が増加した。(印刷)
- 降雪前の駆け込み需要が無かった。仕入価格、燃料費、最低賃金の上昇が続くが、その分の回収はできていない。(その他繊維製品)

[来期の業況について]

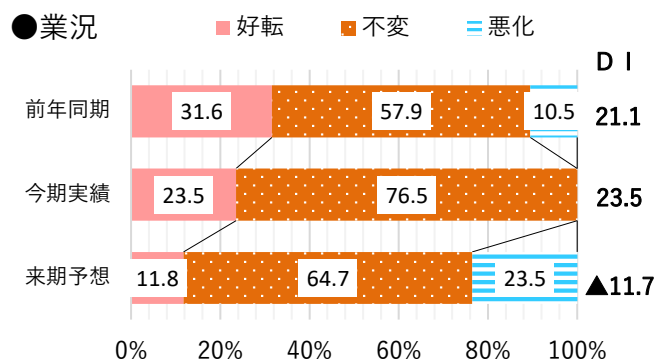
- 売上は増加傾向だが国内向け販売の減少、原材料価格の上昇、人手不足、収益の伸び悩みなど不安要素が多く、見通しは決して明るくない。(食料品)
- 今期の結果を自社努力で改善できる範囲を超えているのが実情で、中小企業に対する政治的なサポートが必要だと考える。(食料品)
- 売上の増加を見込む。人員を確保できたので、増産の体制が整ってきている。(食料品)
- 来期は閑散期となるため、例年通り業況は悪化する。(食料品)
- 売上は減少するが、利益は増加すると思われる。(食料品)
- 今年度は8.5億円の売上を見込む。(食料品)
- 好調を維持できると思われる。(食料品)
- 人材不足が続くと思われる。(食料品)
- 仕入価格の上昇分を商品価格に転嫁できない。(飲料)
- 仕事が決まっており、昨年と同程度の業況で推移すると思われる。工場の実習生が実習を終了して帰国するため、人材確保の方法を考えている。人材確保が最大の課題で、ハローワークに求人を出しているが、なかなか人が集まらない。ハローワーク以外への求人広告の掲載を検討している。(金属製品)
- 物件数が少ない状況のため、足を使って新規顧客の開拓と自社のサービス力をPRしたい。現状のままでは業況は厳しくなると思われる。(金属製品)
- 同業他社の廃業等のため、引合いが増加すると思われる。(金属製品)
- ようやく著名な案件が動き出す見通しが立った。(金属製品)
- 冬物商戦が終わり、夏物商戦に向けての準備に入る。しかし、長靴業界全体が不振にあえぐ昨今、売上が見込めない状況が続くと考えられる。この苦境を乗り越え、来年度以降につなげられるよう、EC販売の強化、工業用品販売の営業力の向上などにより、利益をもたらす環境の構築に努めていく。(ゴム製品)
- 今期と大きく変わらないと予想する。製品値上げの影響で売上は減少または不変を見込むが、電力料金や灯油価格の上昇が予想されている。経常利益は不変だと思われるが、水産分野、農業分野の需要回復に依存する可能性は否定できない。(プラスチック)
- 射出成型機を入れ替えたため、多様な受注に対応し、売上の増加を見込む。(プラスチック)
- 閑散期に当たるため、例年同様売上が落ち込むと思われる。(プラスチック)
- 原材料費、エネルギーコスト、労務費等の増加が予想され、より厳しい経営になると思う。(紙製品)

卸 売 業

業況、売上、採算

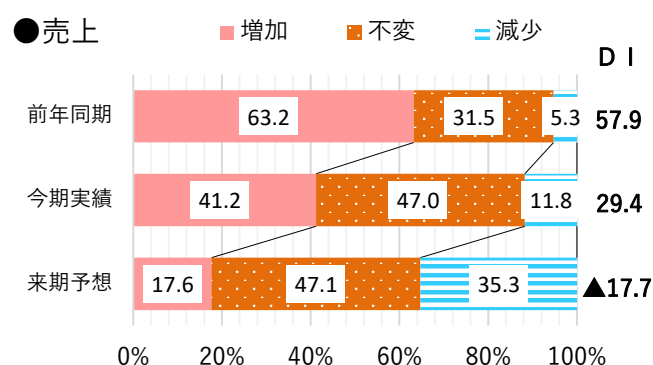
今期(2024.10~12)の業況判断DIは23.5で、前年同期(2023.10~12)と比べ2.4ポイント上昇しました。

来期(2025.1~3)は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



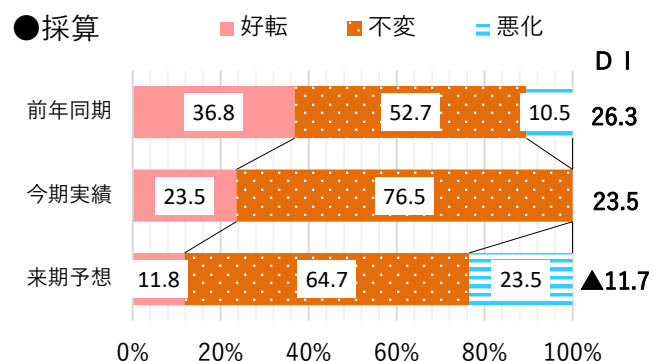
今期の売上DIは29.4で、前年同期と比べ28.5ポイント低下しました。

来期は、売上が大幅に減少し、マイナスに転じると予想しています。

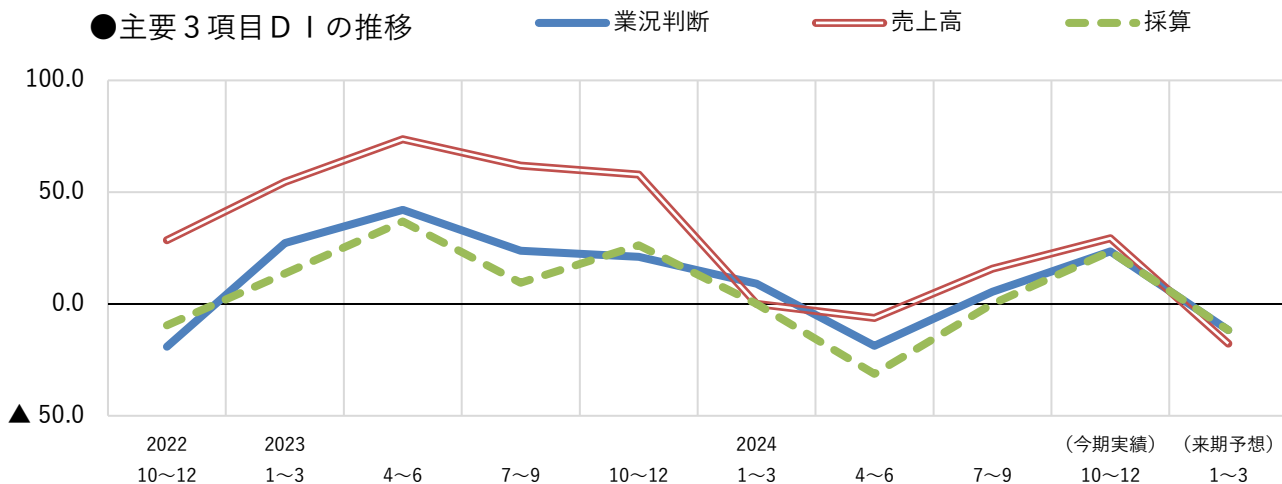


今期の採算DIは23.5で、前年同期と比べ2.8ポイント低下しました。

来期は、採算が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。



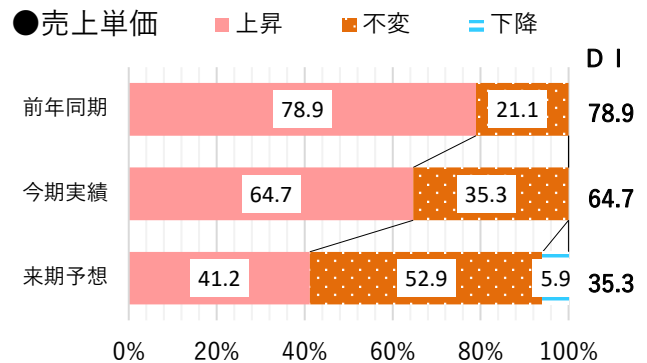
●主要3項目DIの推移



売上単価、商品仕入単価

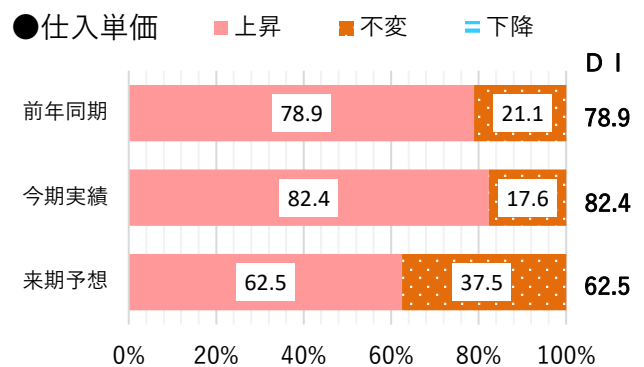
今期の売上単価DIは64.7で、前年同期と比べ14.2ポイント低下しました。

来期は、売上単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは82.4で、前年同期と比べ3.5ポイント上昇しました。

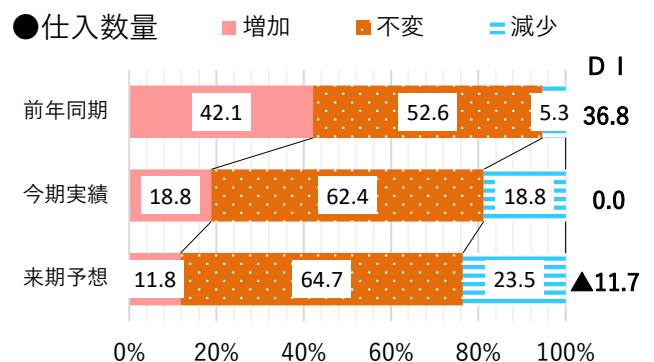
来期は、仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



商品仕入数量、商品在庫数量

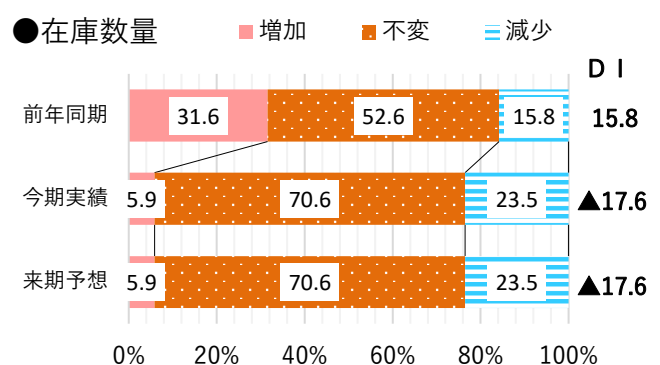
今期の仕入数量DIは0.0で、前年同期と比べ36.8ポイントと大幅に低下しました。

来期は、仕入数量がマイナスに転じると予想しています。



今期の在庫数量DIは▲17.6で、前年同期と比べ33.4ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

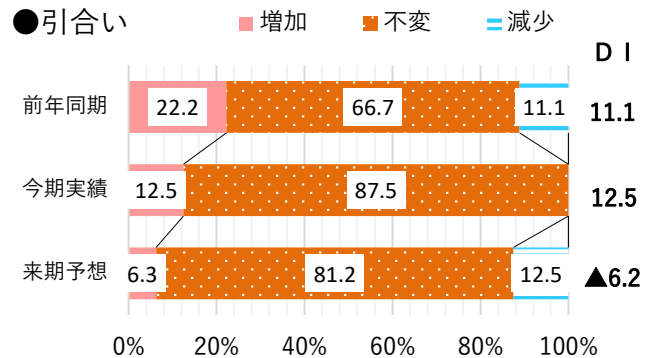
来期は、在庫数量の横ばいを予想しています。



引合い

今期の引合いDIは12.5で、前年同期と比べ1.4ポイント上昇しました。

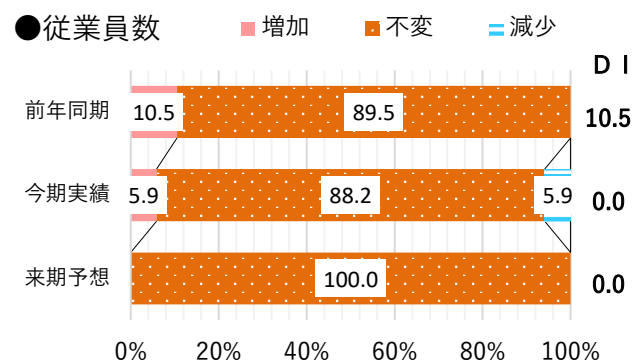
来期は、引合いがマイナスに転じると予想しています。



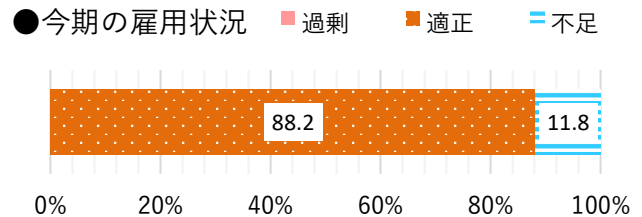
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ10.5ポイント低下しました。

来期は、従業員数に変化はないと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は88.2%、不足していると回答した企業の割合は11.8%でした。



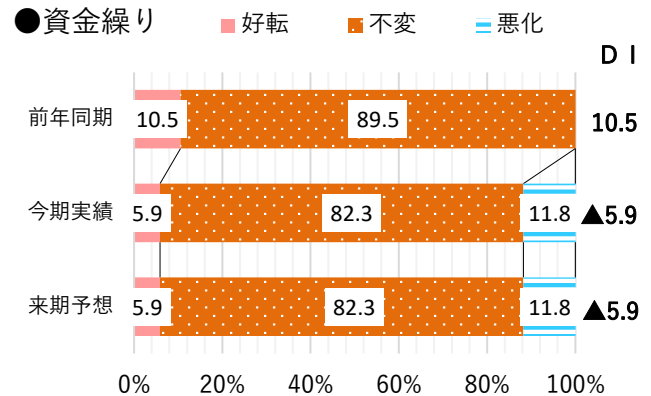
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、卸売業全体の76.5%を占めており、不足と回答した企業は2社でした。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	13
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	0

資金繰り、設備投資

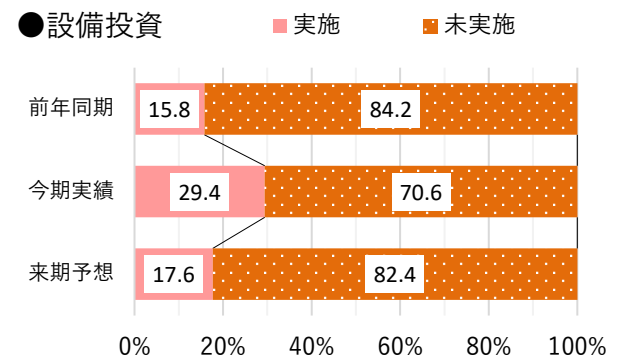
今期の資金繰りDIは▲5.9で、前年同期と比べ16.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は、資金繰りの横ばいを予想しています。



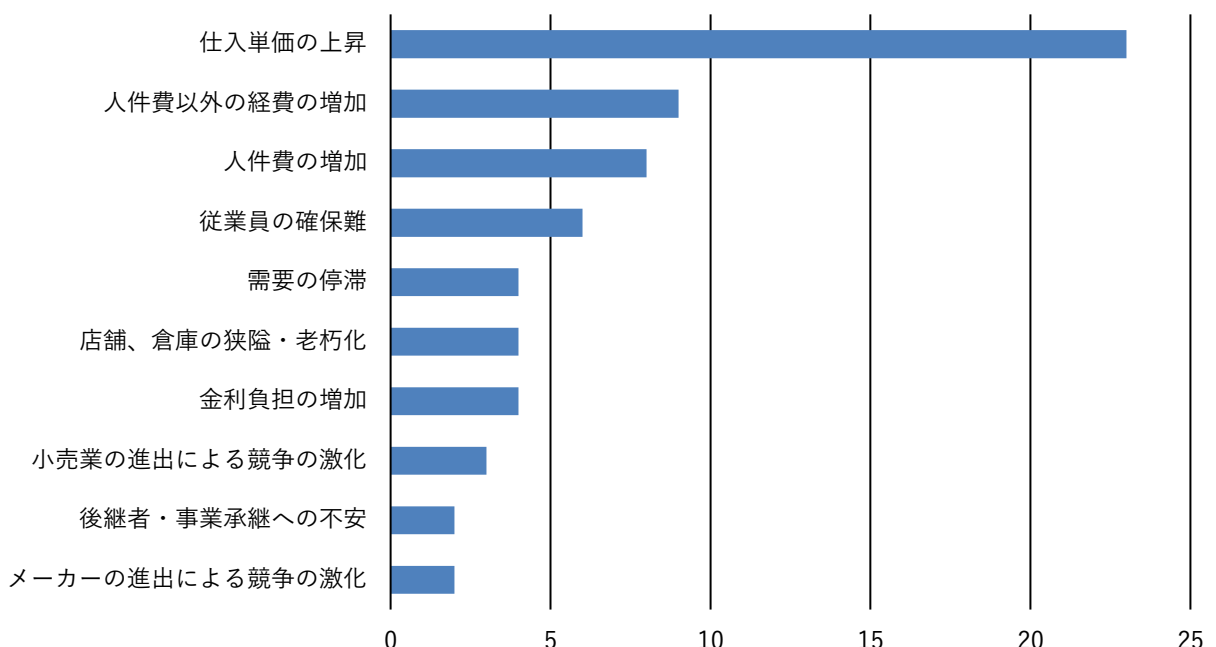
設備投資を実施した企業の割合は29.4%で、前年同期と比べ13.6%上昇しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「店舗」、「付帯施設」、「その他」（同位）でした。

来期に設備投資を計画している企業の割合は17.6%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は1位が「仕入単価の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「人件費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 仕入単価が上昇した。販売単価、給料を引き上げた。(自動車部品)
- 全体的に需要はやや少なく、業者により仕事量の偏りが大きい。取りこぼしがないように丁寧な対応で乗り切ったと感じている。(建築材料)
- 売上額、仕入価格は10%増加した。人材は不足している。(建築材料)
- 売上は販売単価の上昇と大型案件が多かったことで増加した。(事務用品)
- 人口減少に伴って売上も減少しているが、仕入単価の上昇に合わせて販売単価も引き上げているため、売上を維持できている。(石油)
- 昨年1名退職したが、残った社員で乗り切った。売上は減少したが、利益は確保できた。(塗料)

[来期の業況について]

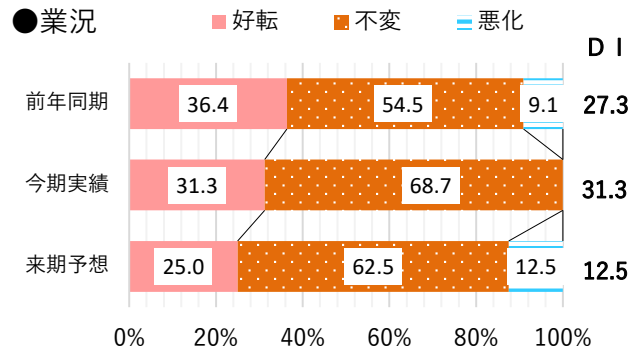
- 日本は資源の少ない国なので、原材料の価格変動が多く、負担が大きい。(自動車部品)
- 冬季の需要は少ないが、来期の景気は例年以上に良くないという同業者の声がある。(建築材料)
- まだまだ厳しい状況が続くと思われる。(塗料)

小 売 業

業況、売上、採算

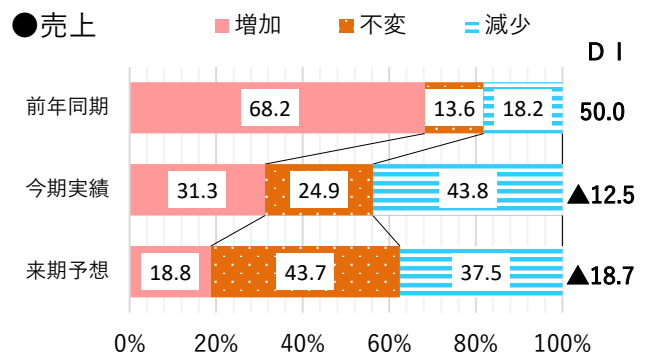
今期(2024.10~12)の業況判断DIは31.3で、前年同期(2023.10~12)と比べ4.0ポイント上昇しました。

来期(2025.1~3)は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



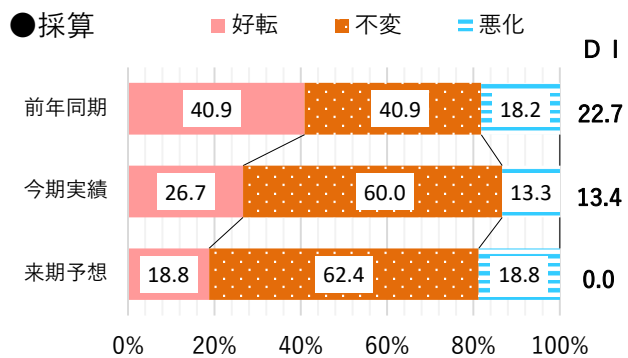
今期の売上高DIは▲12.5で、前年同期と比べ62.5ポイントと大幅に低下し、マイナスに転じました。

来期は、売上の減少傾向が続くと予想しています。

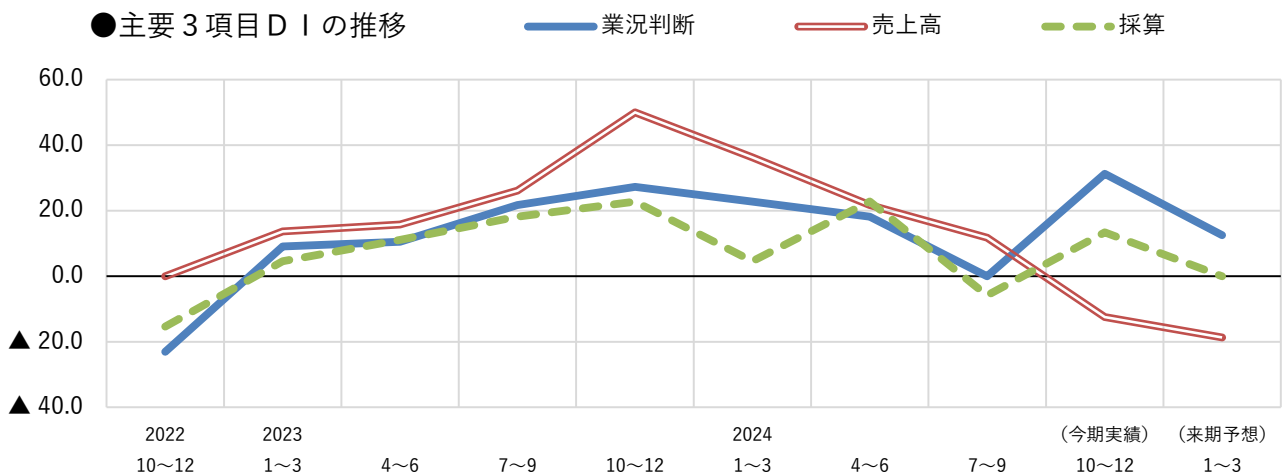


今期の採算DIは13.4で、前年同期と比べ9.3ポイント低下しました。

来期は、採算の好転傾向が弱まると予想しています。



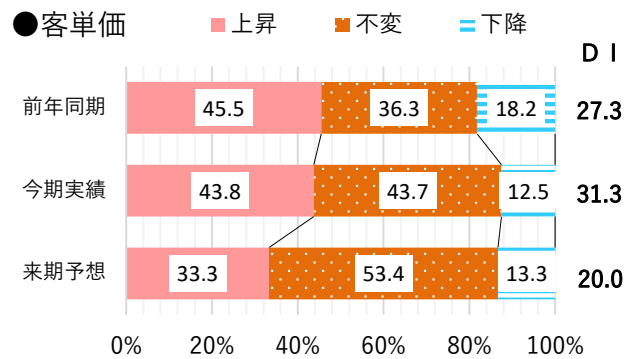
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

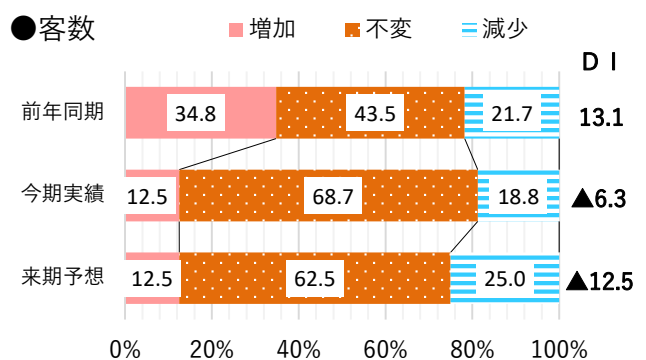
今期の客単価DIは31.3で、前年同期と比べ4.0ポイント上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



今期の客数DIは▲6.3で、前年同期と比べ19.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

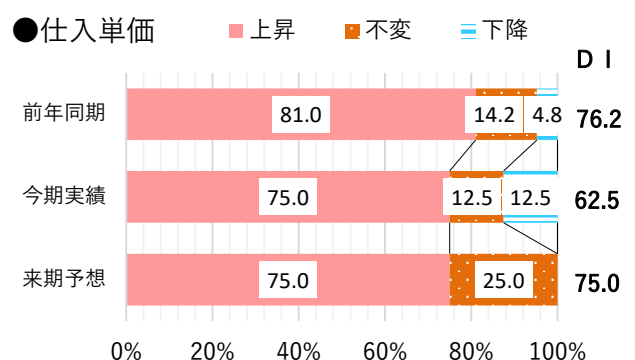
来期は、客数の減少傾向が強まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

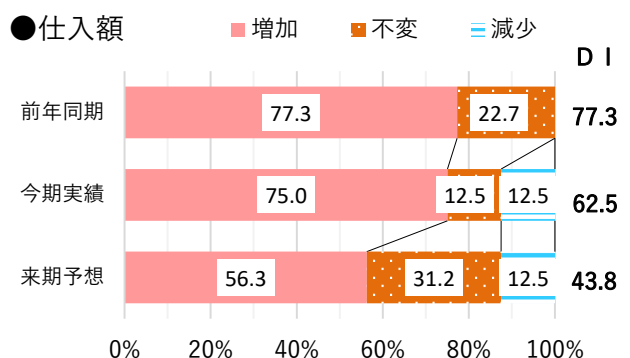
今期の仕入単価DIは62.5で、前年同期と比べ13.7ポイント低下しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が強まると予想しています。



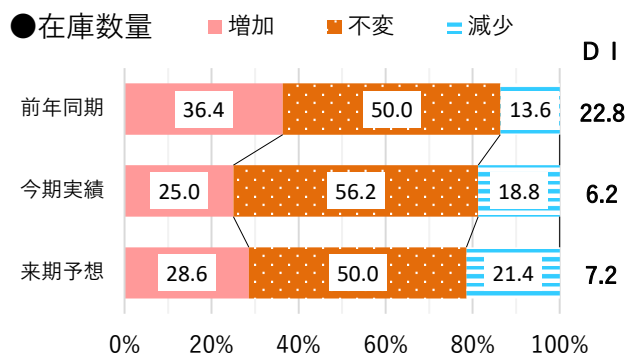
今期の仕入額DIは62.5で、前年同期と比べ14.8ポイント低下しました。

来期は、仕入額の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の在庫数量DIは6.2で、前年同期と比べ16.6ポイント低下しました。

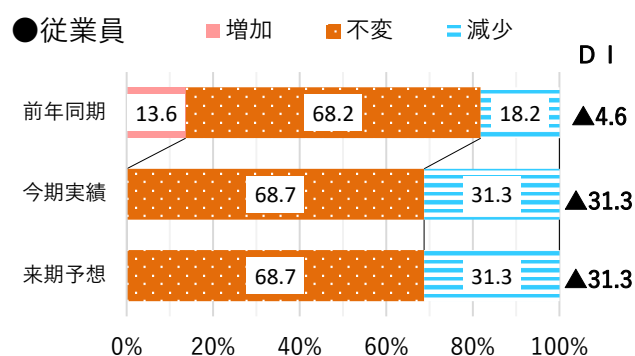
来期は、在庫数量に大きな変化はないと予想しています。



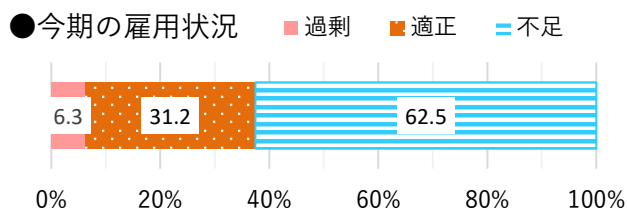
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲31.3で、前年同期と比べ26.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は6.3%、適正であると回答した企業の割合は31.2%、不足していると回答した企業の割合は62.5%でした。



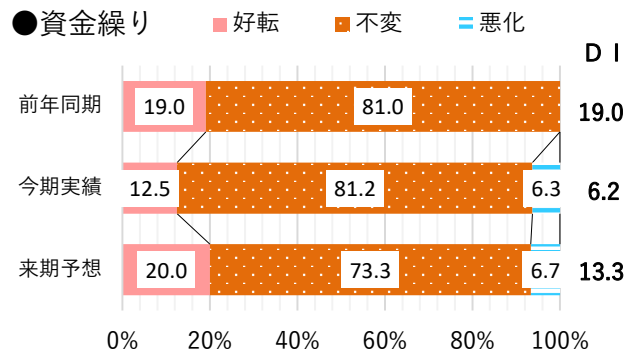
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答で、31.2%を占めており、62.5%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	1
	適正	5
	不足	5
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	5

資金繰り、設備投資

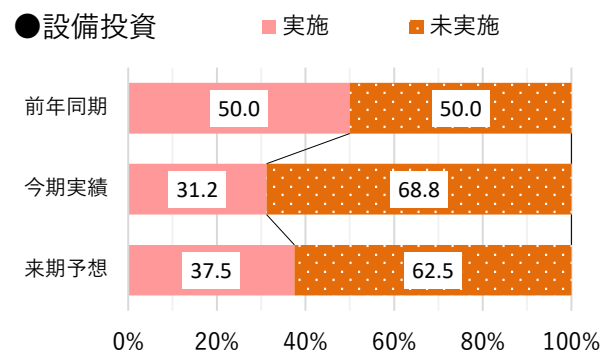
今期の資金繰りDIは6.2で、前年同期と比べ12.8ポイント低下しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が続くと予想しています。



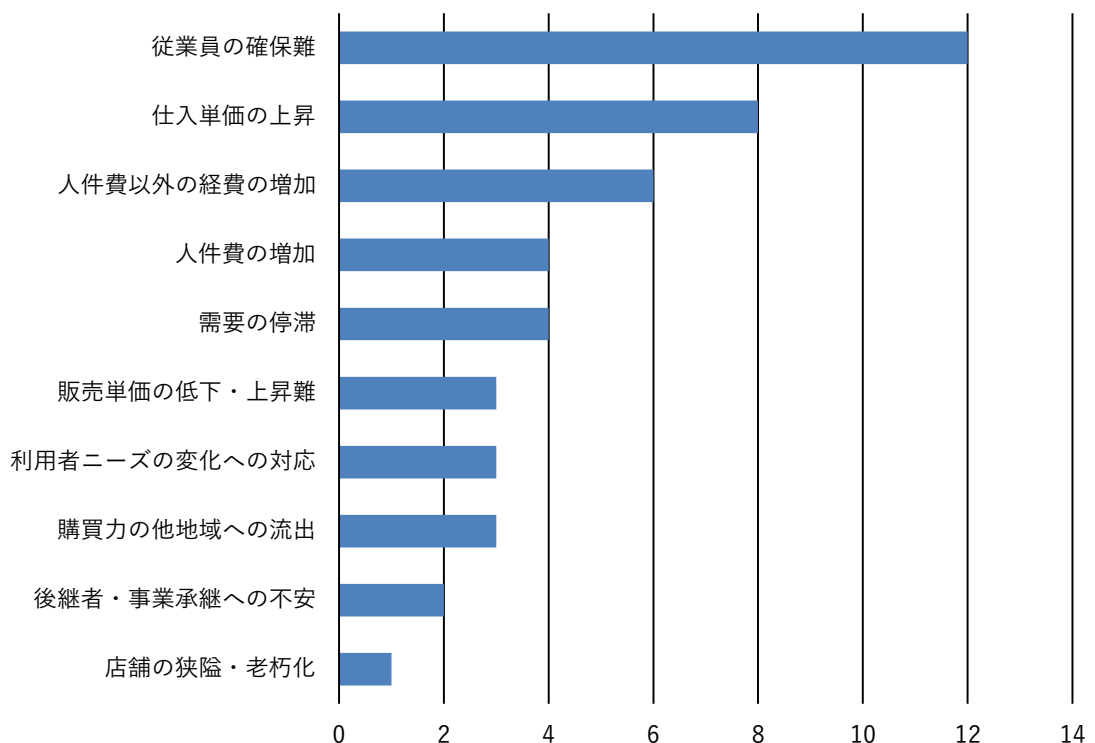
設備投資を実施した企業の割合は31.2%で、前年同期と比べ18.8%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は37.5%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「従業員の確保難」、2位が「仕入単価の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- インバウンド向けの販売が好調なため、売上は増加しているが、人材が不足している。人件費や運賃、備品、販促費などの各種コストが増加しているため、経常利益の改善には至っていない。(大型店)
 - 原料の相場が高騰しているが、品薄感からなのか、高い消費意欲を感じる。また、市場価格が全体的に高騰したため価格競争が穏やかになったと感じる。(食料品)
 - 10月、11月はスポットで大きな受注が入り、売上は好調だった。原材料、包装資材の値上げが多数あり、利益は思ったほど上がっていない。(菓子製造小売)
 - 最低賃金の上昇により、収益が悪化した。(食肉)
 - 4月からの工場レバレート見直しの効果が出ている。サブスク利用者の比率上昇に伴い、粗利単価が上昇した。中古車の品薄により、オークション販売での粗利単価が上昇した。(自動車)
- ※レバレート：自動車整備士1人が作業した場合の1時間あたりの作業単価のこと
- 新型車投入により新車の売上、整備の売上が増加している。部品、用品等の値上げが続いている。若手営業社員の退職があった。(自動車)
 - 仕入価格が上昇した。(自動車)
 - 人手不足が続いている。(コンビニ)
 - 国内の消費者が高単価品志向と低単価品志向に二極化しているが、小樽は高単価品を買える層が少ない。中小零細、小規模事業者の大多数が廃業に向かっていると思う。(衣服・身の回り品小売)
 - 売上が減少し、資金繰りが悪化した。(衣服・身の回り品小売)
 - 年賀状印刷の売上が大幅に減った。(衣服・身の回り品)
 - 補助金の交付により、業況は不変だった。(石油)
 - 仕入価格と人件費が軒並み上昇し、利益を圧迫した。人材確保も難しい。(花・植木)
 - 物価高、顧客の減少が課題だ。(花・植木)

[来期の業況について]

- 人材確保は依然として厳しいと予測する。セルフレジの導入や機器の入れ替えで生産性を高めカバーしていく。冬の観光シーズンとなるため、観光客へのアプローチを強化していく。(大型店)
- 観光関連が活性化し、売上が増加すると思われる。(食料品)
- 毎年それほど大きい売上がない時期だが、原材料、包装資材の値上げ予定がある。(菓子製造小売)
- 最低賃金上昇の影響で、収益の悪化が続く。(食肉)
- 新車の生産状況により、3月まで売上減少が見込まれる。新車の受注状況は好調だ。(自動車)
- 最繁忙月の3月に向かうため、業績は好転する。人材確保が業績の鍵を握る。(自動車)
- 外注費が増加する。(自動車)
- 学生の卒業シーズンを迎えるため、アルバイトを中心に人手不足が深刻化する。(コンビニ)
- 消費者は生活必需品を優先し、似た商品ならより安い品を求める。冬期は暖房代が負担となり、購買意欲を減退させる。市民は生活に余裕がないと思われる。(衣服・身の回り品小売)
- インバウンド需要が増えてきているので、例年並みの売上は保てると考えている。(衣服・身の回り品)
- 業況を改善させたい。(衣服・身の回り品小売)
- 今期と同様の状況で推移すると思う。(花・植木)
- 物価高、顧客の減少が課題だ。(花・植木)

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

今期（2024.10～12）の業況判断DIは13.3で、前年同期（2023.10～12）と比べ19.9ポイント上昇し、プラスに転じました。

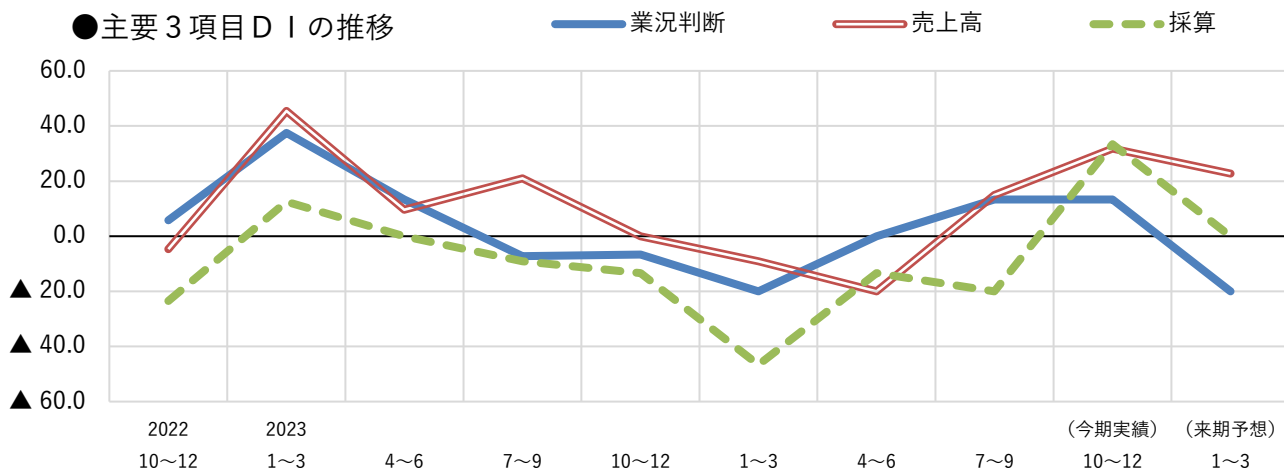
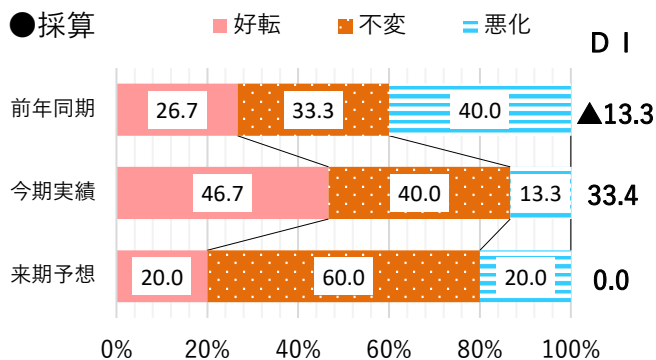
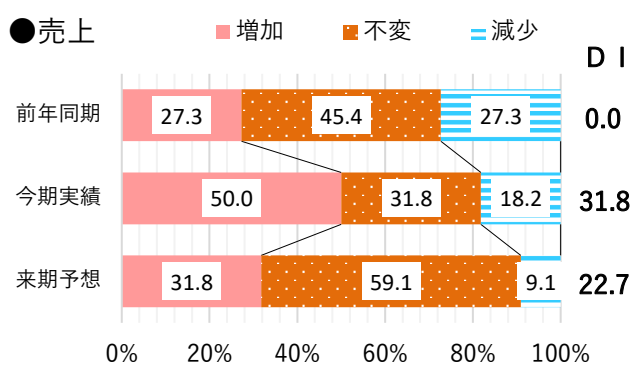
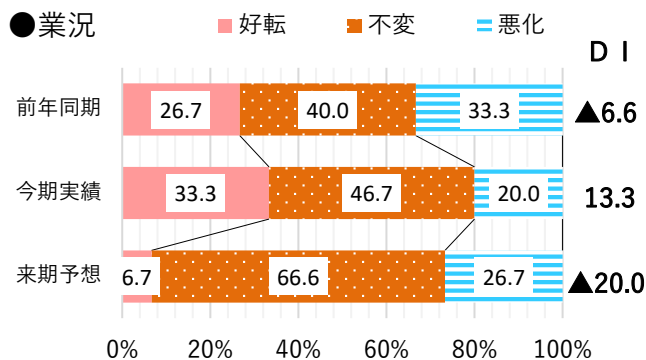
来期（2025.1～3）は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。

今期の売上高DIは31.8で、前年同期と比べ31.8ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは33.4で、前年同期と比べ46.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

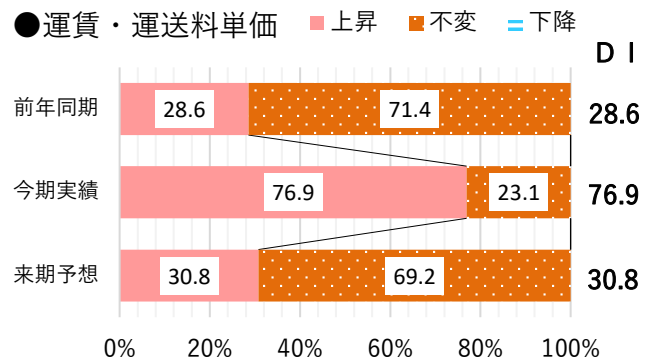
来期は、採算の好転傾向が大幅に弱まると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

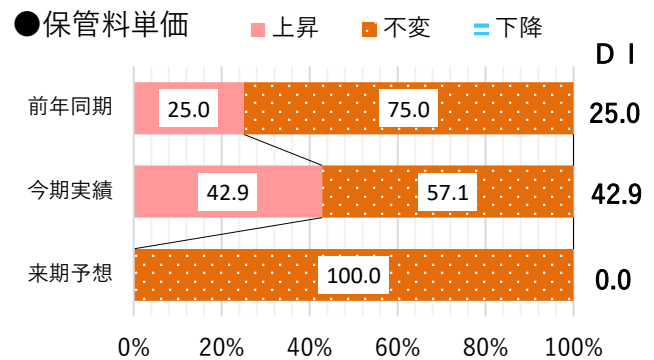
今期の運賃・運送料単価DIは76.9で、前年同期と比べ48.3ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が大幅に弱まると予想しています。



今期の保管料単価DIは42.9で、前年同期と比べ17.9ポイント上昇しました。

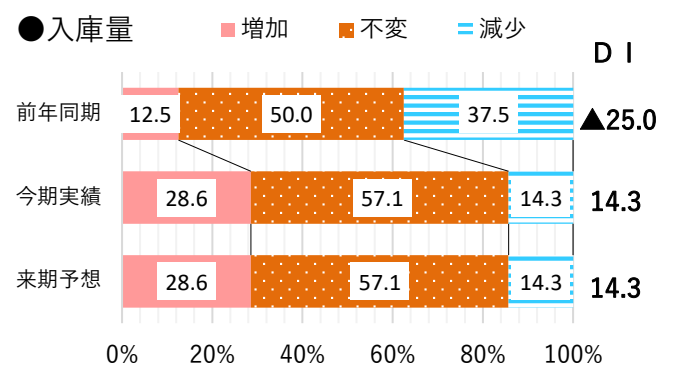
来期は、保管料単価に変化はないと予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

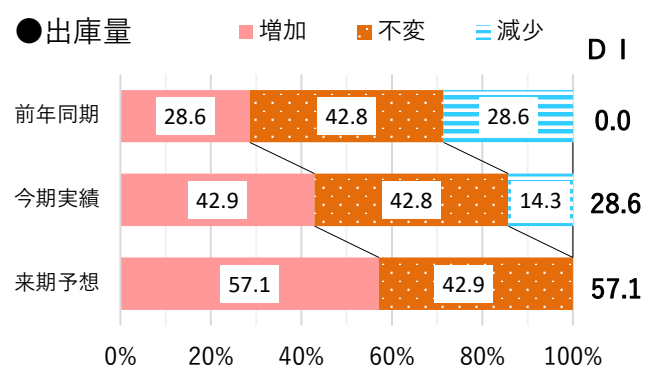
今期の入庫量DIは14.3で、前年同期と比べ39.3ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、入庫量の横ばいを予想しています。



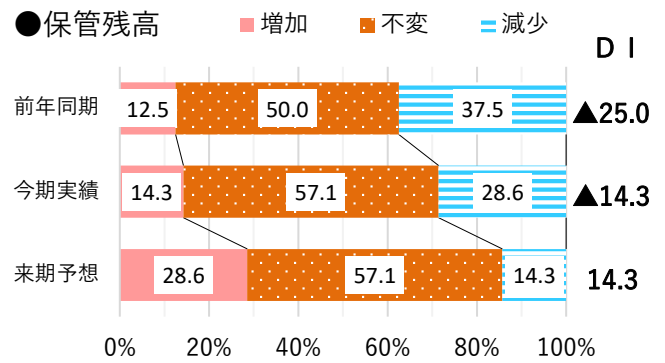
今期の出庫量DIは28.6で、前年同期と比べ28.6ポイント上昇しました。

来期は、出庫量の増加を予想しています。



今期の保管残高DIは▲14.3で、前年同期と比べ10.7ポイント上昇しました。

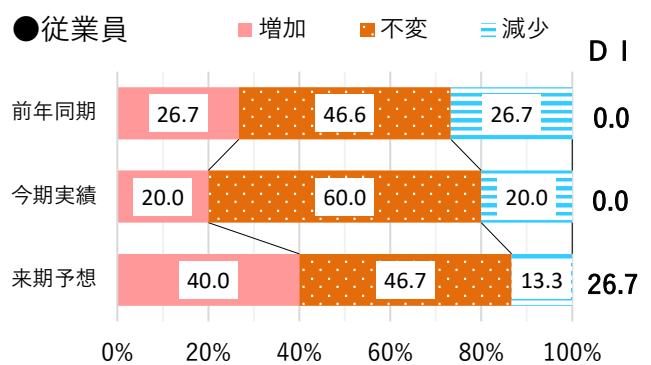
来期は、保管残高がプラスに転じると予想しています。



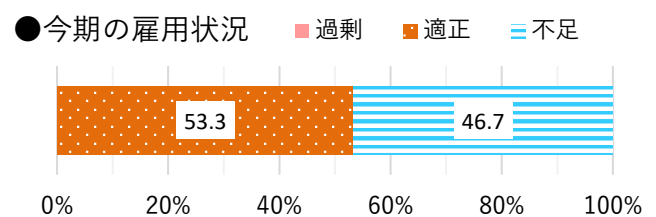
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは0.0で、前年同期と比べ横ばいとなりました。

来期は、従業員数が増加に転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は53.3%、不足していると回答した企業の割合は46.7%でした。



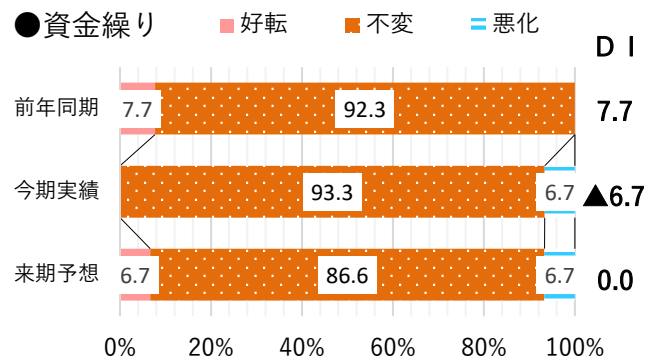
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、40.0%を占めました。46.7%の企業は従業員不足と回答しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	3
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

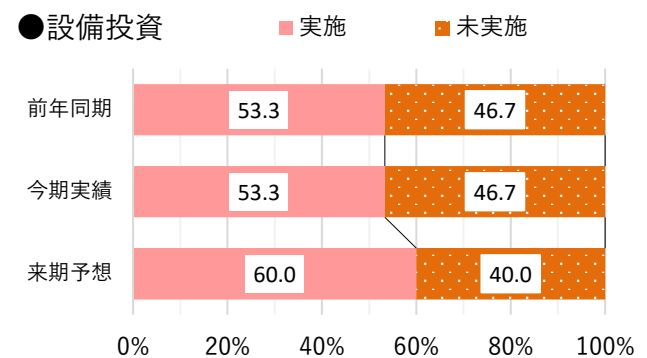
今期の資金繰りDIは▲6.7で、前年同期と比べ14.4ポイント低下し、マイナスに転じました。

来期は資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。



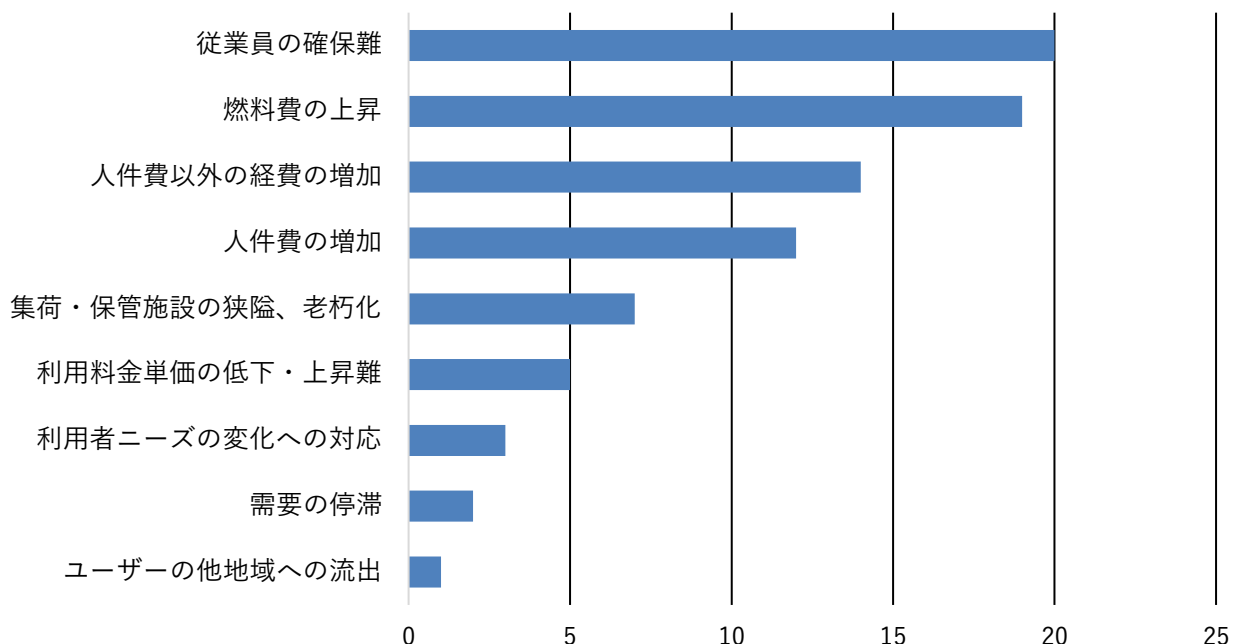
設備投資を実施した企業の割合は53.3%で、前年同期と比べ横ばいとなりました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「集荷・保管施設」、「付帯施設」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は60.0%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「燃料費の上昇」、3位が「人件費以外の経費の増加」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 社員の待遇改善と運賃アップを並行してできており、人材も社員紹介制度を利用して問題なく確保できている。車両価格、燃料価格の高騰は厳しい。(道路貨物運送)
- 燃料費、車両代、修理代、タイヤ代、フェリー代、人件費等全てが値上がりした。(道路貨物運送)
- 運賃や倉庫料の値上げ効果で売上が増加した。(道路貨物運送)
- 昨年と同程度の売上で推移している。(道路貨物運送)
- タクシー運賃の改定により、営業収入が10%程度増加した。(道路旅客運送)
- 運賃改定により売上が増加した。(道路旅客運送)
- 後半は売上が増加した。(道路旅客運送)
- 値上交渉の効果で売上が増加した。取扱量はあまり変わらない。(倉庫)
- 新卒採用、中途採用ともに厳しい状況にある。(倉庫)
- 在庫量は横ばいだった。(倉庫)
- 昨年より売上が増加したが、燃料油は相変わらず高値が続いている。(水運)

[来期の業況について]

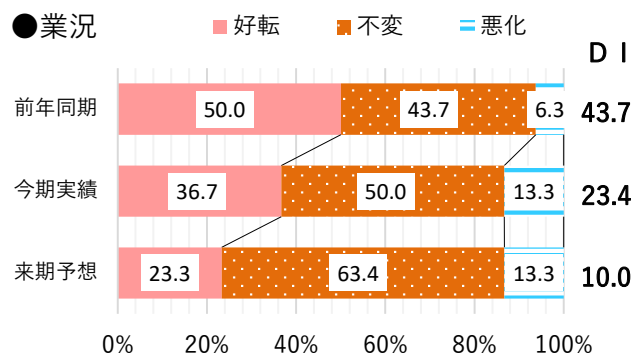
- 状況次第だが、新規顧客の獲得と運賃交渉を推進したい。(道路貨物運送)
- 輸送量を確保できるか不透明だ。(道路貨物運送)
- 昨年と同程度の売上を見込む。(道路貨物運送)
- 全てにおいて物価が高騰するため、先行きに不安を感じている。(道路旅客運送)
- タクシー運賃の改定による増収が続くと思われる。(道路旅客運送)
- 売上の増加を見込む。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少、出庫量の増加が予想される。(倉庫)
- 採用活動が引き続き難航すると思われる。(倉庫)
- 定期検査による減便により、今期と比べ輸送量と売上の減少を見込む。(水運)

観光業

業況、売上、採算

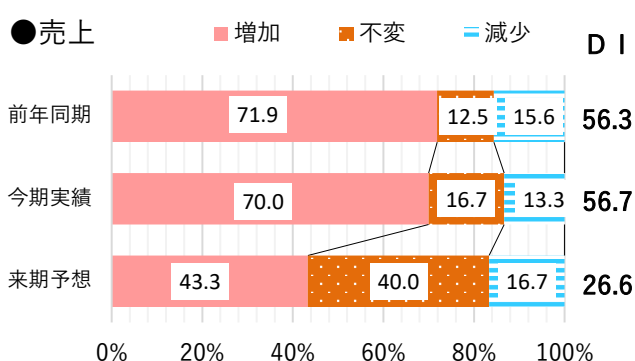
今期（2024.10～12）の業況判断DIは23.4で、前年同期(2023.10～12)と比べ20.3ポイント低下しました。

来期（2025.1～3）は、業況の好転傾向が弱まると予想しています。



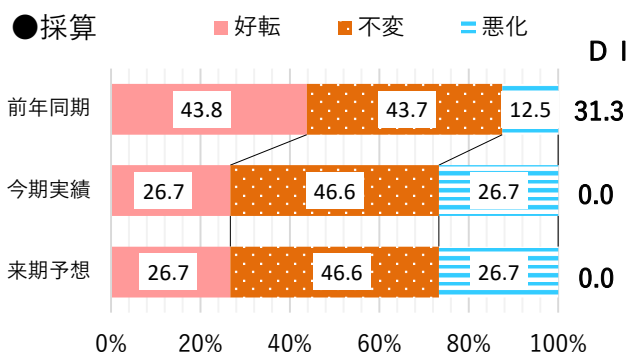
今期の売上DIは56.7で、前年同期と比べ0.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

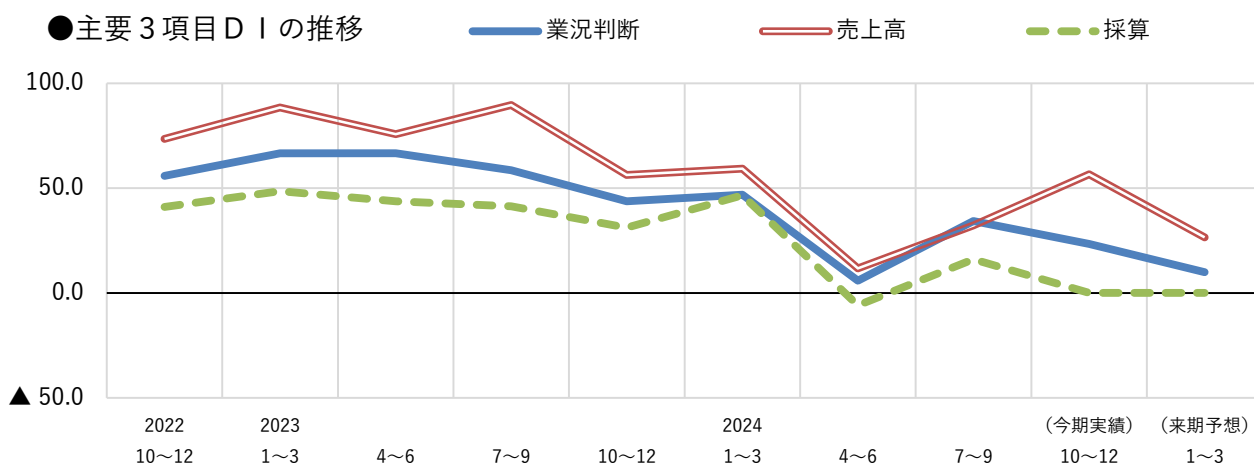


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ31.3ポイントと大幅に低下しました。

来期は、採算の横ばいを予想しています。



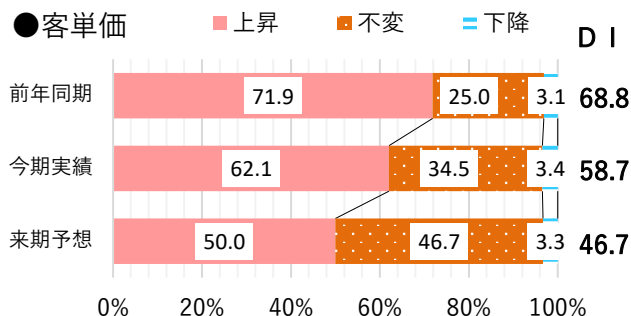
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、日本人客数、外国人客数

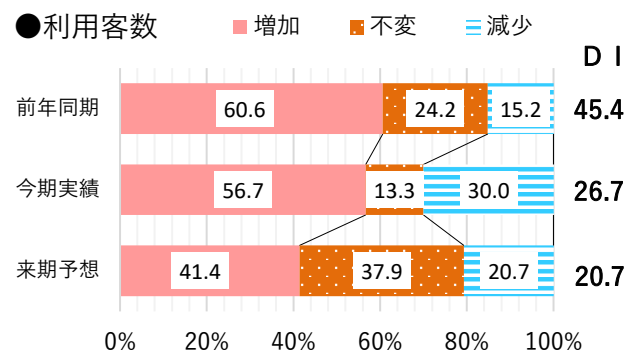
今期の客単価DIは58.7で、前年同期と比べ10.1ポイント低下しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



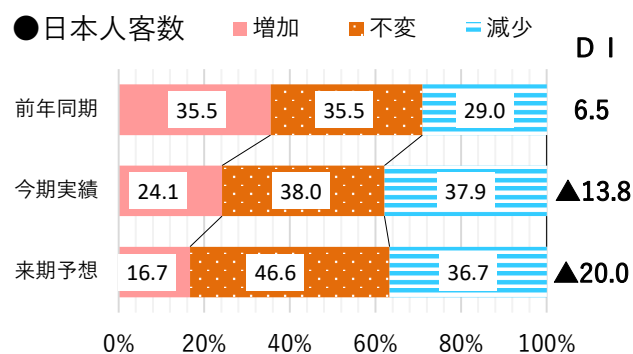
今期の利用客数DIは26.7で、前年同期と比べ18.7ポイント低下しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



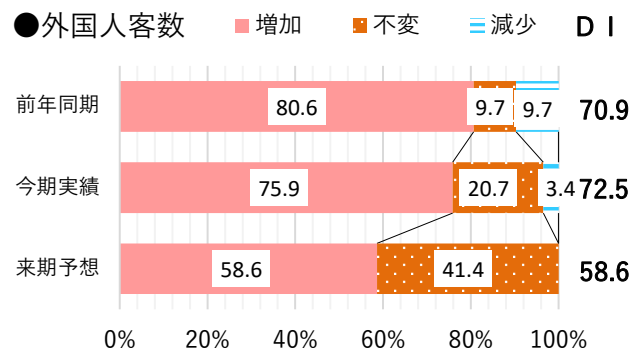
今期の日本人客数DIは▲13.8で、前年同期と比べ20.3ポイントと低下し、マイナスに転じました。

来期は、日本人客数の減少傾向が強まると予想しています。



今期の外国人客数DIは72.5で、前年同期と比べ1.6ポイント上昇しました。

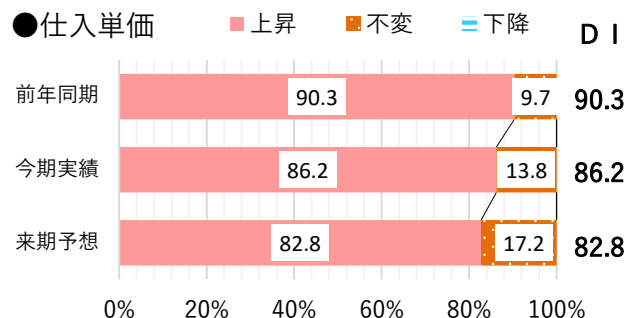
来期は、外国人客数の増加傾向が続くと予想しています。



仕入単価

今期の仕入単価DIは86.2で、前年同期と比べ4.1ポイント低下しました。

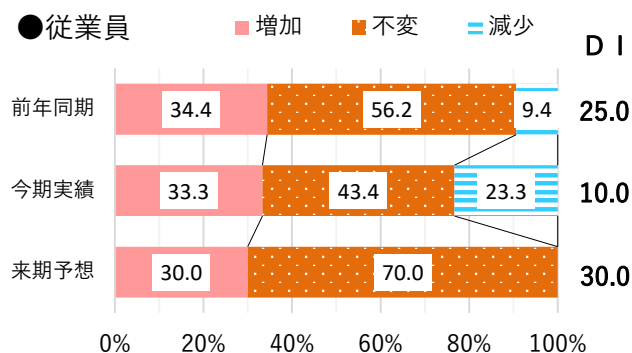
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



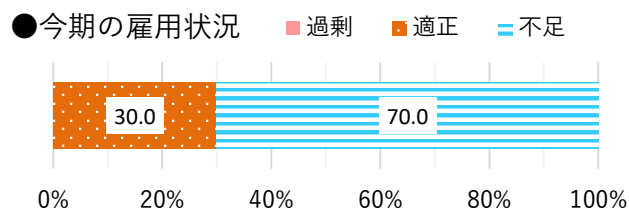
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは10.0で、前年同期と比べ15.0ポイント低下しました。

来期は、従業員数の増加傾向が強まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は30.0%、不足していると回答した企業の割合は70.0%でした。



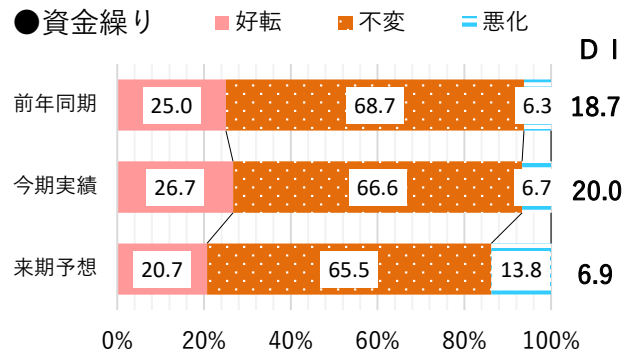
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で増加し、不足している」、「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答で、23.3%を占めました。回答全体では70.0%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	7
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	7
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	7

資金繰り、設備投資

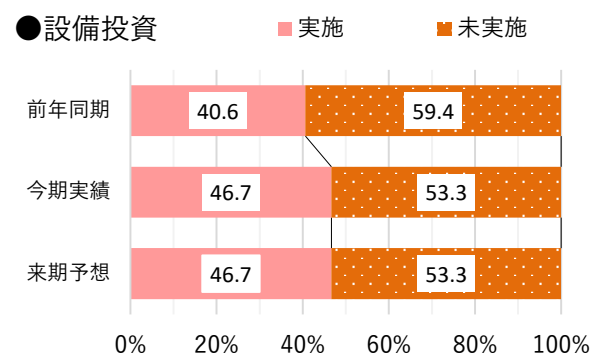
今期の資金繰りDIは20.0で、前年同期と比べ1.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの好転傾向が弱まると予想しています。



設備投資を実施した企業の割合は46.7%で、前年同期と比べて6.1%上昇しました。投資内容は、1位が「建物」、2位が「サービス設備」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は46.7%で、横ばいを予想しています。

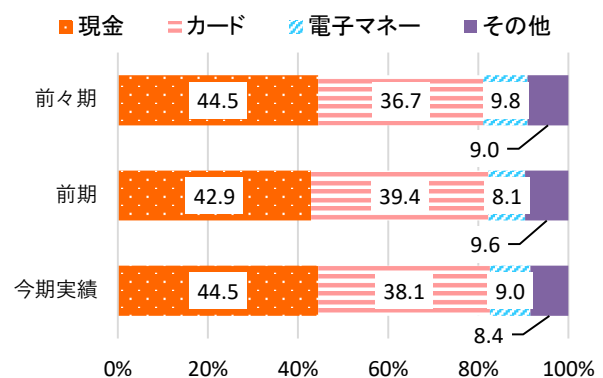


今期利用客の決済方法

今期利用客の決済方法の割合は、1位が現金で44.5%、2位がカードで38.1%、3位が電子マネーで9.0%、4位がその他で8.4%となりました。

その他として挙げられた具体的な決済方法は、掛売り、クーポン券、銀行振込、ポイント決済、オンライン決済（d払い、paypay等）、バーコード決済、会社の福利厚生制度の利用です。

●今期利用客の決済方法(%)

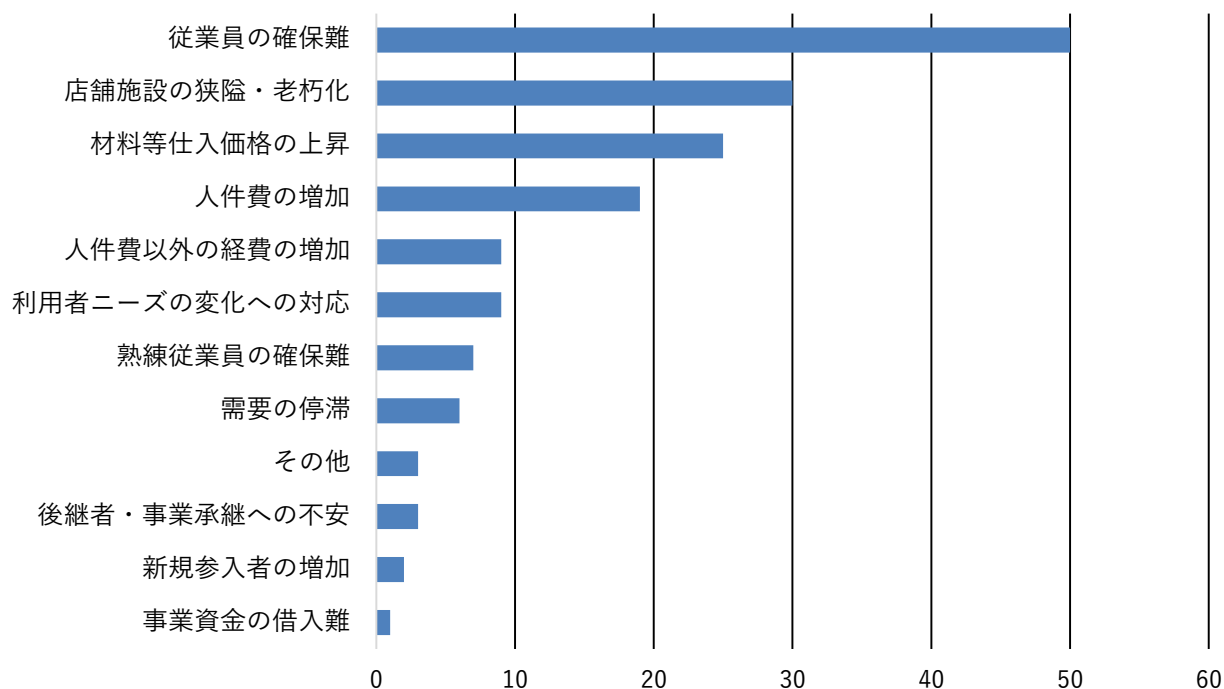


客室稼働率

今期調査で回答があった、宿泊業の平均客室稼働率は71.0%でした。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「店舗施設の狭隘・老朽化」、3位が「材料等仕入価格の上昇」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 前期比で日本人客と外国人客の来店減を予想していたが、外国人客が減少しなかったため、業況を不変と判断した。売上は前年同期比で不変だったが、原材料と諸経費が上昇し続けているので採算は悪化した。年々、年末需要が衰退しており、今後を懸念している。相変わらず人手不足に大変苦慮しており、優秀な人材の確保と外国人採用で改善できないか、諸方面へ情報を求める等、試行錯誤している。(土産品)
- 原材料価格、販売管理費は引き続き上昇傾向にある。コロナ禍の頃からブランディングに注力していたため、支出の増加分は商品価格の改定により吸収できている。(土産品)
- 今年は国、道の旅行割引クーポン、市のプレミアム商品券がなく、厳しい状況だった。(土産品)
- 原材料価格は高止まりしているが、売上はやや増加した。(土産品)
- 11～12月は海外の方の売上が多かった気がする。(土産品)
- 閑散期ではあるが、昨年よりも観光客の利用が多い。(土産品)
- インバウンドが増加し、業況が好転した。(土産品)
- インバウンドの増加により好況だった。(土産品)
- 最低賃金と仕入価格の上昇を受けて商品を値上げしたため、売上が増加したように見えるが、それほど利益は伴っていない。前期に比べればマシという意味では好転した。(飲食店)
- 繁忙期のため売上が増加した。仕入や備品等全てにおいて値上がりしている。(飲食店)
- 利用者の割合は日本人客57%、外国人客43%だった。(飲食店)
- 日本人の利用が少し減少した。(飲食店)
- インバウンドの利用が増加した。国内客数は不変だった。(レンタカー)
- 人材が不足している。(レンタカー)
- 韓国を中心に、インバウンドが増加した。雪を楽しみに観光に来ているようだ。原材料費や光熱費といった経費の増加が、じわじわと経営を圧迫している。(ホテル)

- 昨年国や道が実施した旅行支援事業の反動で、春は低迷したが、夏前から需要が回復した。(ホテル)
- 円安によりインバウンドが増加した。仕入価格が上昇した。(ホテル)
- 予約状況が順調に推移した。(ホテル)
- 人材確保に苦慮している。(ホテル)
- 売上額が増加した。(ホテル)
- 清掃員不足、仕入価格、人件費の高騰、販売価格の上げ止まりに直面した。(コテージ・ペンション)
- グリーンシーズンにインバウンドが増加したことで集客が増えた。9月から新たな展示を行ったことで、日本人観光客も例年より好調に推移した。(社会教育)
- 前期比で人材は不足気味だが、乗船客数と売上がともに増加した。(水運業)
- 冬季は販売と仕入が低調となるため、変動幅は少なかった。(娯楽業)

[来期の業況について]

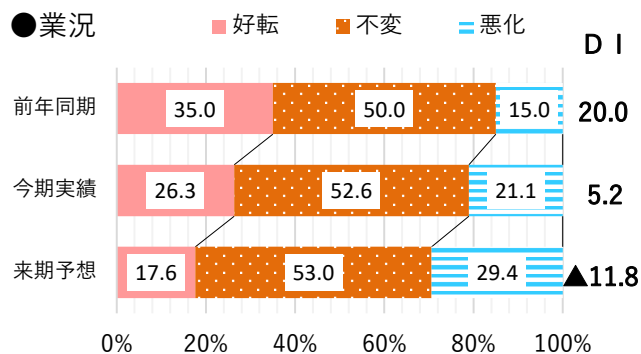
- 引き続き日本人客と売上は減少するが、外国人客の来店状況は変わらず、売上を維持できると予想する。例年冬は客数が減少するが、今期は外国人客の日本人気が続いているため、増加動向が続くと思われる。原材料、諸経費は上昇が続くので、採算は厳しくなり、人手不足も深刻さが増すと思われる。企業努力だけでは解決出来ないため、公的機関はじめ諸方面からの支援、援助を切に期待する。(土産品)
- 引き続き原材料価格や販管費が上昇するが、売上の増加で支出の増加分を吸収できると思う。(土産品)
- 原材料価格がさらに上がるが、一部製品の値上げで対応する。(土産品)
- 物価が上がっているため、日本人観光客は減少を見込む。(土産品)
- 引き続きインバウンドの増加による好況を見込む。(土産品)
- 冬期閑散期に入り、観光客が減る。(土産品)
- 先行きは不透明だ。(土産品)
- 今期に続いて繁忙期となるため、業況は変わらない。(飲食店)
- インバウンドはさらに増加すると思われる。(飲食店)
- 令和6年度とあまり変化がないと思われる。(飲食店)
- 今期の業況と同じ程度かと思われる。(飲食店)
- 今期同様、インバウンドは増加するが、国内客数は変わらないと思われる。(レンタカー)
- 人材不足による事業規模の縮小を見込む。(レンタカー)
- インバウンドの個人客による需要に期待する。人件費の高止まりや若手人材の確保の難しさから、組織の年齢構成がいびつになっている。(ホテル)
- 特にマイナス要因がないため、業況の好転を見込む。(ホテル)
- インバウンドが好調のため、好転を見込む。(ホテル)
- 仕入価格の上昇と人材確保に不安がある。(ホテル)
- 1月の後半は、予約の状況が良くない。(ホテル)
- インバウンドの増加を見込む。(ホテル)
- 冬はインバウンドの利用が本格化するため、期待する。(社会教育)
- 1年で最も閑散期となることから、業況は今期比で悪化を見込む。(水運業)
- 今期と同様に動きが少ないため、業況は不変を見込む。(娯楽業)

サービス業

業況、売上、採算

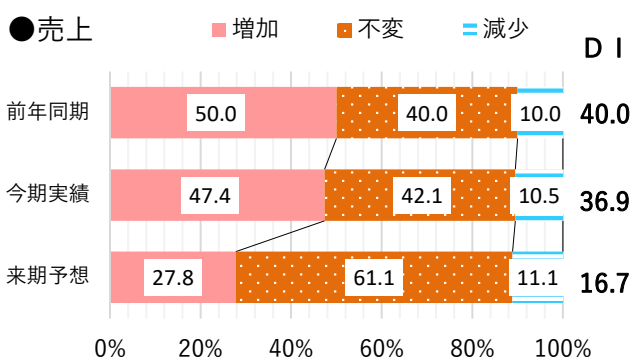
今期（2024.10～12）の業況判断DIは5.2で、前年同期(2023.10～12)と比べ14.8ポイント低下しました。

来期（2025.1～3）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



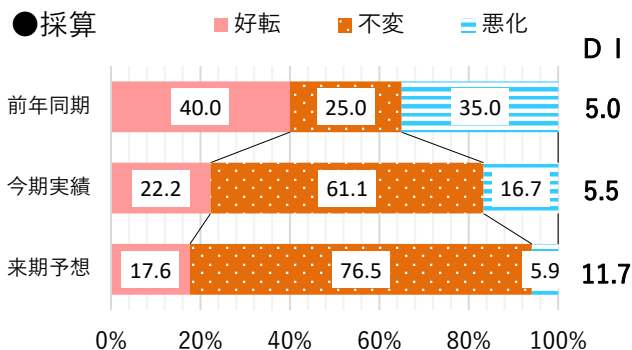
今期の売上高DIは36.9で、前年同期と比べ3.1ポイント低下しました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

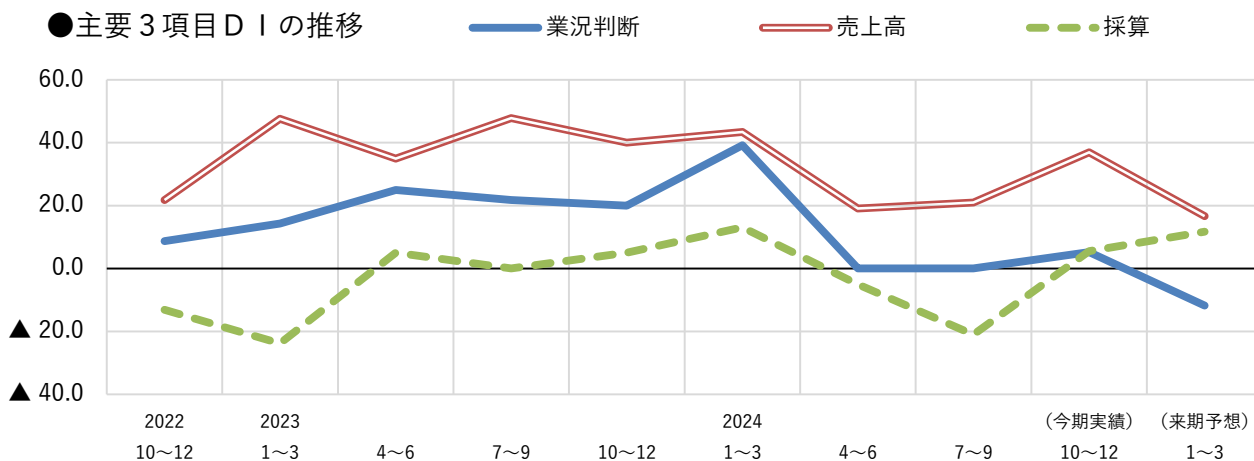


今期の採算DIは5.5で、前年同期と比べ0.5ポイント上昇しました。

来期は、採算の好転傾向が続くと予想しています。



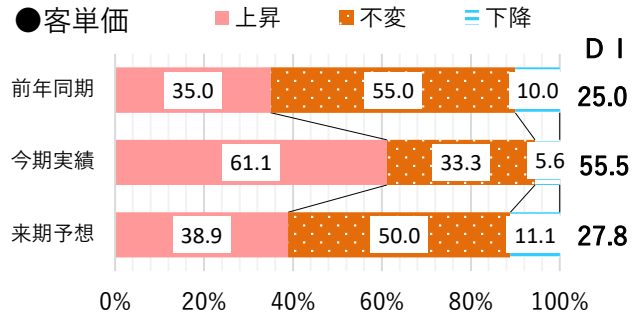
●主要3項目DIの推移



客単価、利用客数、仕入単価

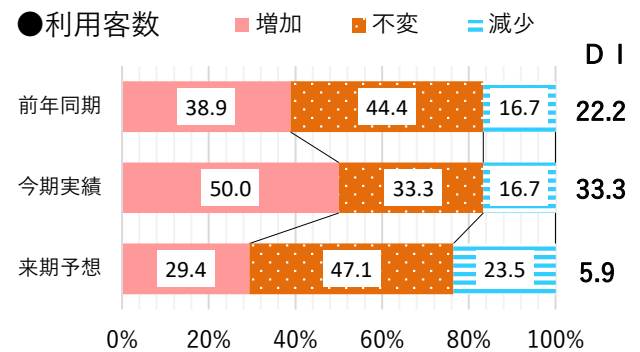
今期の客単価DIは55.5で、前年同期と比べ30.5ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、客単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



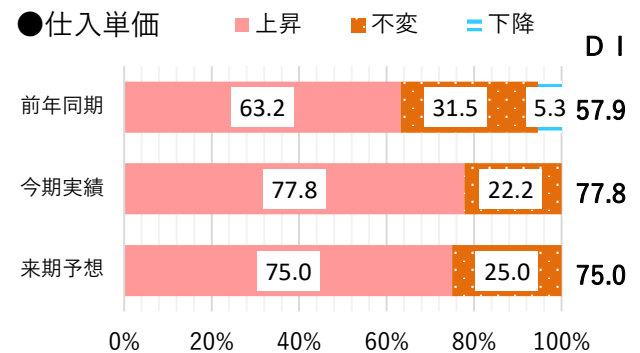
今期の利用客数DIは33.3で、前年同期と比べ11.1ポイント上昇しました。

来期は、利用客数の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは77.8で、前年同期と比べ19.9ポイント上昇しました。

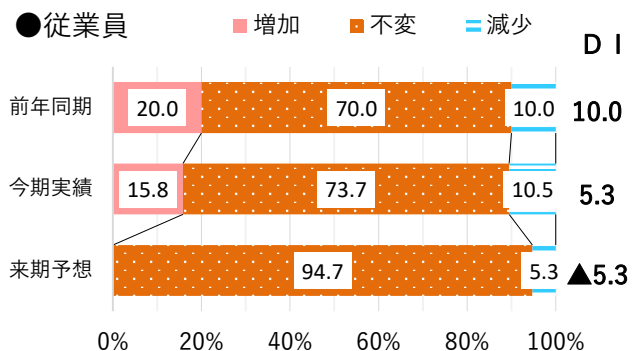
来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



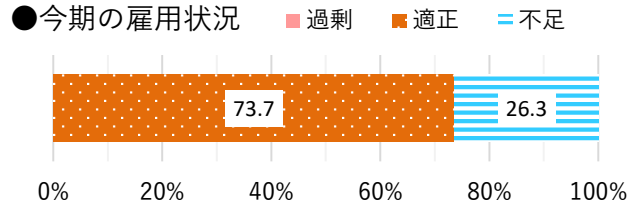
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは5.3で、前年同期と比べ4.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は73.7%、不足していると回答した企業の割合は26.3%でした。



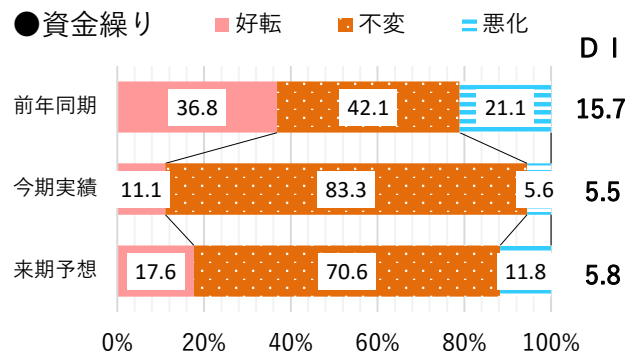
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、52.6%を占めました。回答全体では26.3%の企業で従業員が不足しています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	4
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	1

資金繰り、設備投資

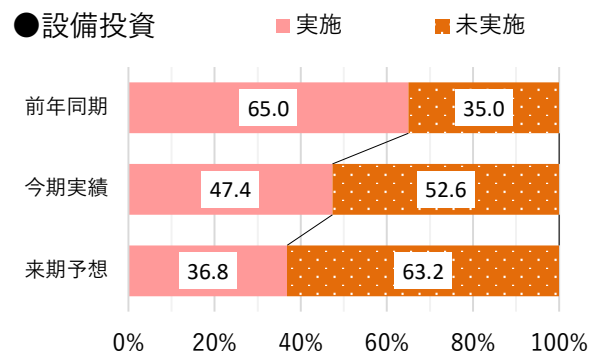
今期の資金繰りDIは5.5で、前年同期と10.2ポイント低下しました。

来期は、資金繰りのほぼ横ばいを予想しています。



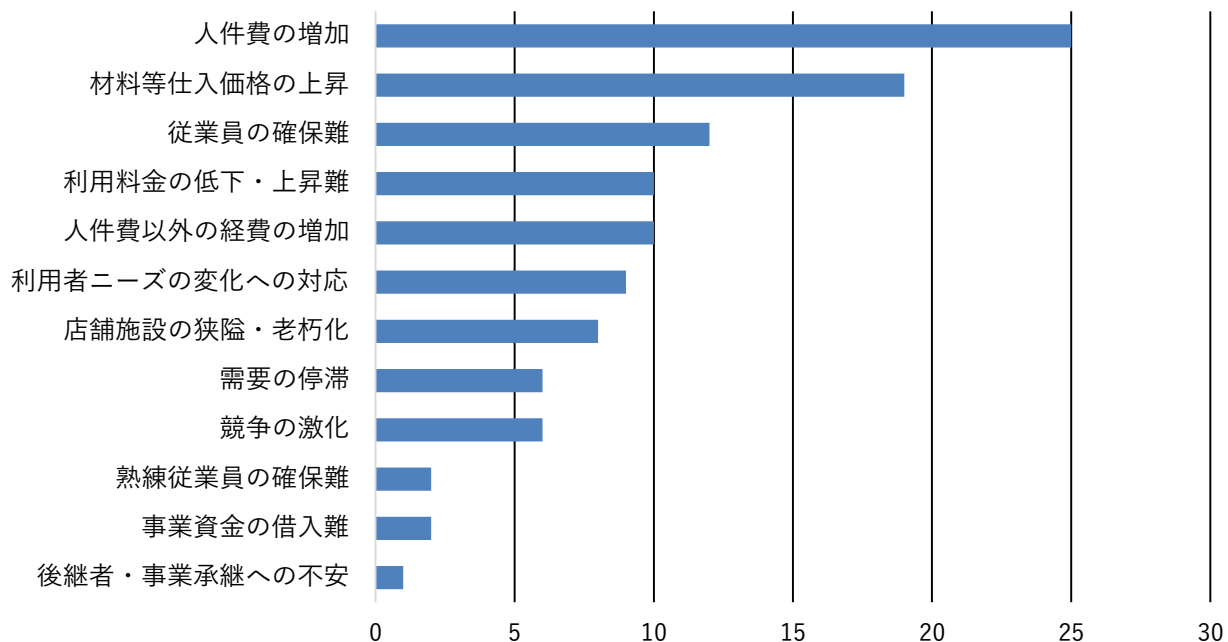
設備投資を実施した企業の割合は47.4%で、前年同期と比べ17.6%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」、「サービス設備」、「OA機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は36.8%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「人件費の増加」、2位が「材料等仕入価格の上昇」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 店舗の改装で客数は増加したと思われる。仕入価格はどんどん上がる一方で、販売価格も引き上げなければ追いつかない状況にある。人材はたまたま通っていた飲食店の店長が退職することとなったため、声をかけたところ入社してくれたので幸運だった。今後はタイミー等も使わなければ厳しいかもしれない。賃金の引き上げは良いと思うが、年収103万円の壁を123万円まで引き上げてもほぼ無意味だと思う。稼げる人はどんどん稼ぎ、消費してもらい、国は消費税で稼ぐべきだ。(飲食店)
- 立地条件等の影響で、毎年冬は客足が減少する。仕入単価は上昇傾向にある。(飲食店)
- 最低賃金の上昇により業況が悪化した。(ビルメンテナンス)
- 小樽市内のみを商圈とした場合、売上は減少となるかもしれない。余市や倶知安等幅広く対応したい。(不動産代理・仲介業)
- 仕入価格は上昇しており、それに伴い売上は減少した。(写真業)
- 観光客の来店が増えはじめた。年末のため、メニューをプラスする方が増えて、客単価が上昇した。仕入価格は上昇傾向にある。賃金を引き上げた。(美容業)
- 若干の価格転嫁により、客数の減少を乗り越えられた。(教養・技能教授業)
- 客数増加により増収増益となったが、仕入単価の上昇により利益率の伸びが鈍化した。(スポーツ施設)
- 売上は増加した。仕入価格は変わらなかった。(情報処理・提供サービス業)

[来期の業況について]

- とにかく国民は稼いで消費し、国全体で産業の売上を伸ばすべき。これが国益になるのは間違いない。円安が続く限り、インバウンドはまだ増えるだろう。人材確保は重要なので、扶養控除は撤廃し、働ける人に働いてもらい、国民の消費を増やすべき。そうしなければ貧しい人は減らないだろう。(飲食店)
- 雪あかりの路などのイベントが予定されているため、外国や本州からの観光客、バスツアーの会社から問い合わせがあり、売上は若干の増加を見込む。(飲食店)

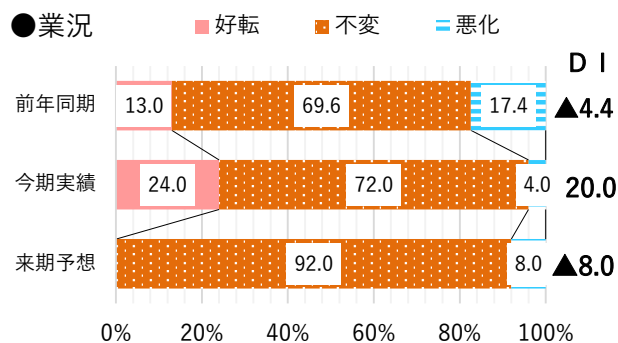
- 最低賃金の上昇に合わせ、取引先との値上交渉を行う。販売単価は上げられるが、仕様の削減により売上が減少傾向にある。（ビルメンテナンス）
- 政府による石油元売会社への補助金が終了する恐れがある。（ビルメンテナンス）
- 賃貸は横ばい、売買は多少の増加を期待する。（不動産代理・仲介業）
- 物価の高騰が続く中で、売上の増加は見込めない。（写真業）
- 12月の来店が例年よりも多かったため、その分1月の利用が減少すると思われる。2～3月の利用客は徐々に回復すると思う。（美容業）
- 価格転嫁が原材料価格の高騰に追い付かないと思われる。（教養・技能教授業）
- 今期と同程度の利用者数を見込む。業況は今期と大きく変わらないと思われる。（スポーツ施設）
- 売上見込額は増加した。仕入価格は不変を見込む。（情報処理・提供サービス業）

建設業

業況、売上、採算

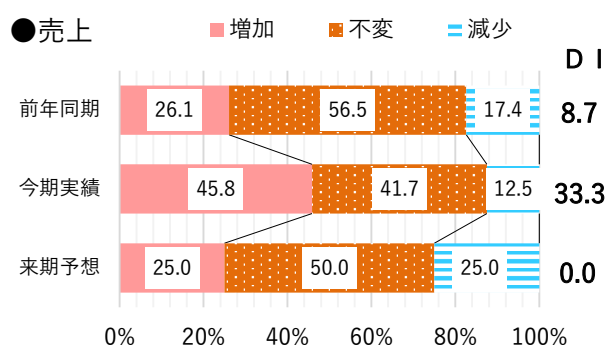
今期（2024.10～12）の業況判断DIは20.0で、前年同期(2023.10～12)と比べ24.4ポイント上昇しプラスに転じました。

来期（2025.1～3）は、業況がマイナスに転じると予想しています。



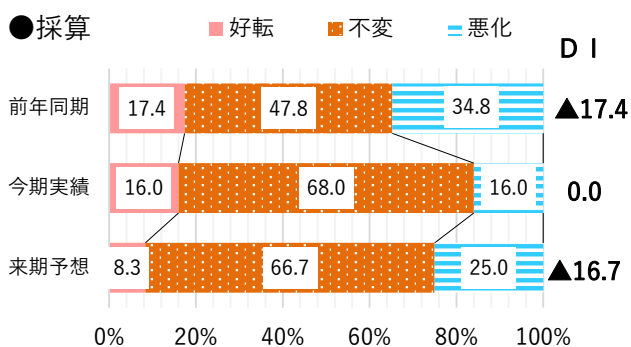
今期の売上高DIは33.3で、前年同期と比べ24.6ポイント上昇しました。

来期は、売上の増加傾向が大幅に弱まると予想しています。

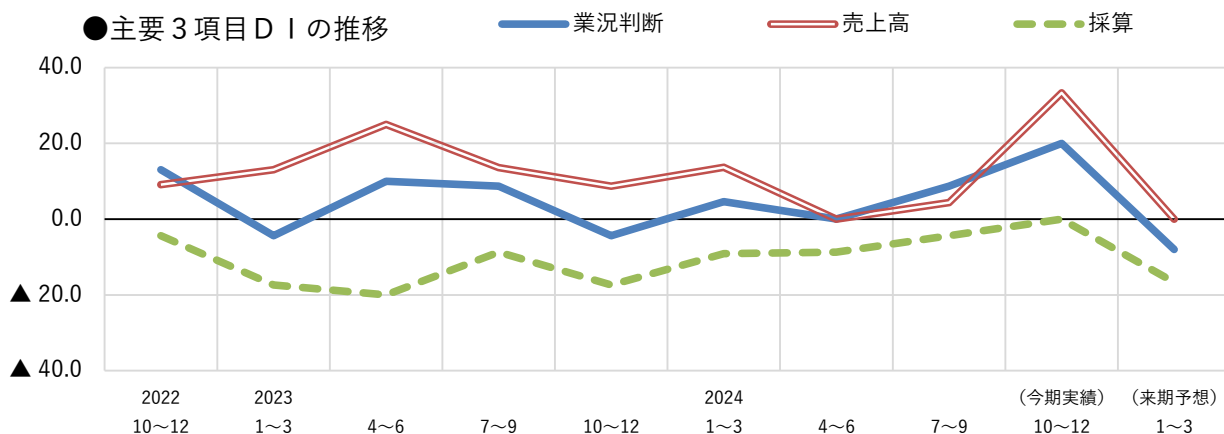


今期の採算DIは0.0で、前年同期と比べ17.4ポイント上昇しました。

来期は、採算がマイナスに転じると予想しています。



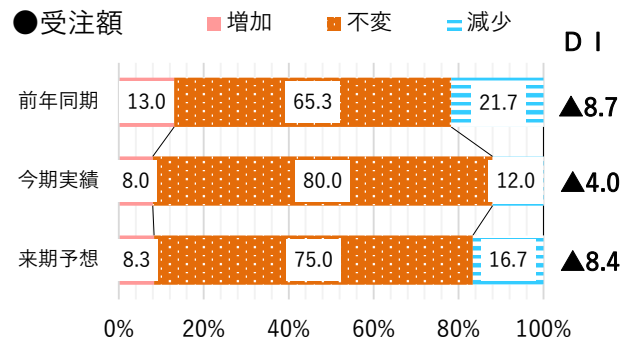
●主要3項目DIの推移



受注（新規契約工事）額、契約残（未消化工事高）、材料仕入単価

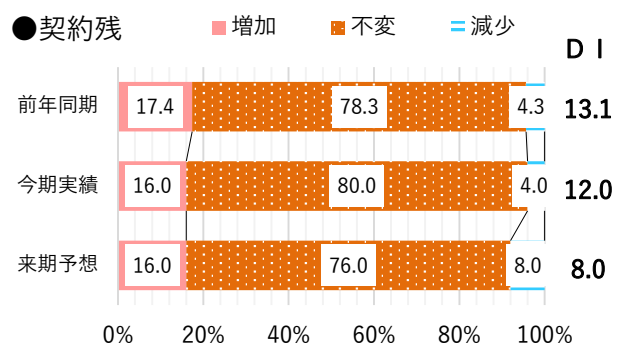
今期の受注額DIは▲4.0で、前年同期と比べ4.7ポイント上昇しました。

来期は、受注額の減少傾向が続くと予想しています。



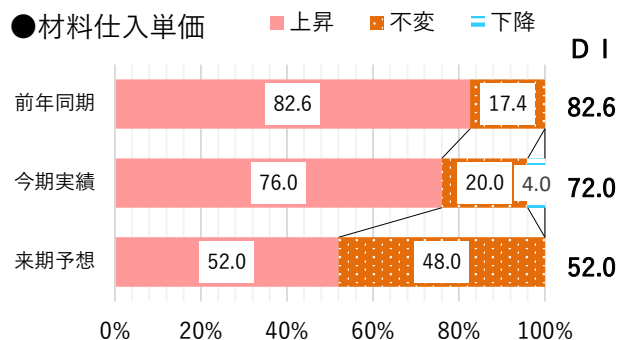
今期の契約残DIは12.0で、前年同期と比べ1.1ポイント低下しました。

来期は、契約残の増加傾向が弱まると予想しています。



今期の材料仕入単価DIは72.0で、前年同期と比べ10.6ポイント低下しました。

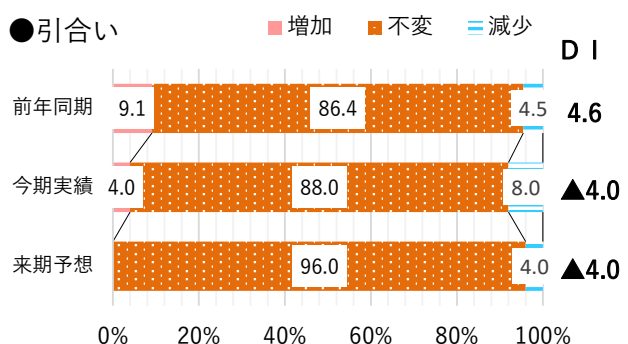
来期は、材料仕入単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



引合い

今期の引合いDIは▲4.0で、前年同期と比べ8.6ポイント低下し、マイナスに転じました。

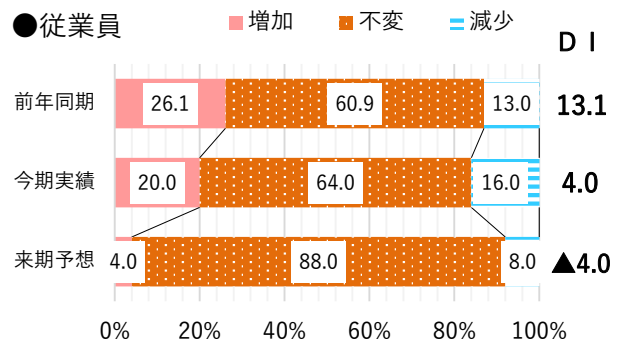
来期は、引合いの横ばいを予想しています。



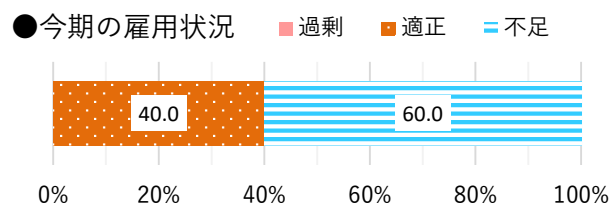
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは4.0で、前年同期と比べ9.1ポイント低下しました。

来期は、従業員数がマイナスに転じると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は40.0%、不足していると回答した企業の割合は60.0%でした。



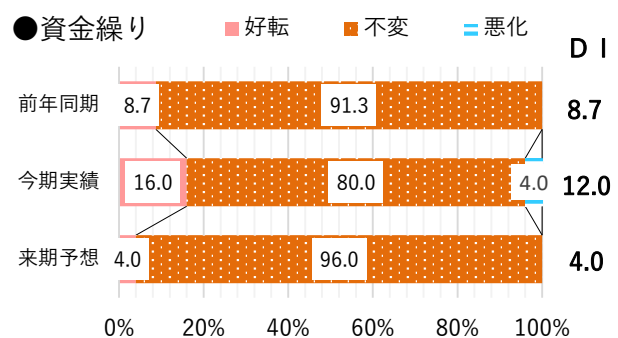
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答で、40.0%を占めました。回答全体では、60.0%が従業員不足と回答しています。

従業員数変化	雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	3
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	6
	不足	10
減少した	過剰	0
	適正	1
	不足	3

資金繰り、設備投資

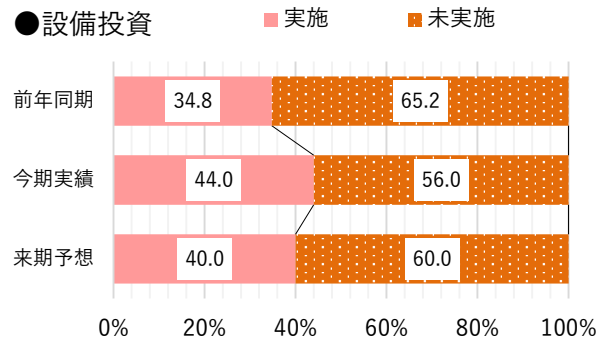
今期の資金繰りDIは12.0で、前年同期と比べ3.3ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りに大きな変化はないと予想しています。



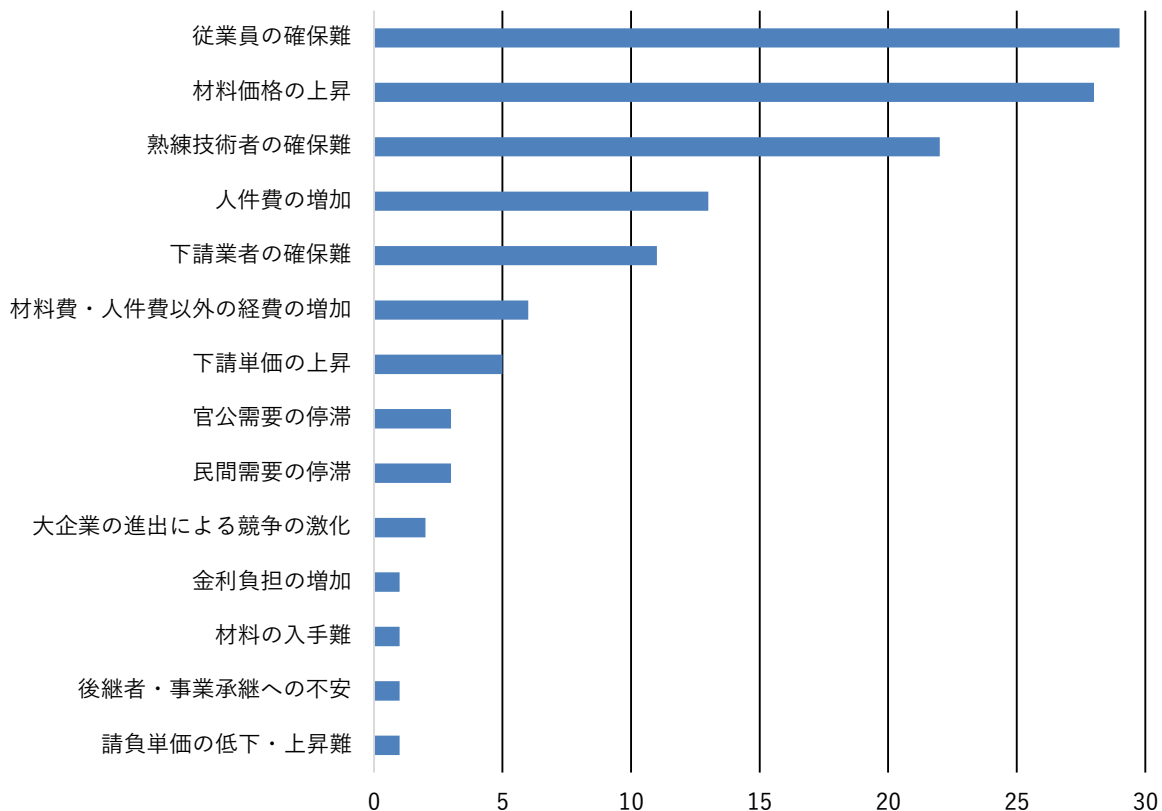
設備投資を実施した企業の割合は44.0%で、前年同期と比べ9.2%上昇しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「OA機器」の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は40.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「従業員の確保難」、2位が「材料価格の上昇」、3位が「熟練技術者の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 年度にまたがる工事が複数あることで利益が分散し、今期の利益確保が厳しい。(一般土木工事業)
- 売上が増加した。仕入価格は上昇したが、ある程度価格転嫁できている。(一般土木工事業)
- 支払手形の決済期間が短縮され、資金繰りが悪化した。(一般土木工事業)
- 売上は10%増加したが、人材確保に苦労した。(一般土木工事業)
- 人材不足が続いており、改善の見込みはない。(一般土木工事業)

- 受注が順調に推移した。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題だ。（一般土木工事業）
- 売上が増加した。（一般土木工事業）
- 当期の業況は決して悪くないが、前期がとても好調だったため相対的に悪化と判断する。利益を確保した上で受注を継続できている。（一般管工事業）
- 株価が上昇した。人手不足の状況は変わらない。（設備工事業）
- 売上が増加したが、材料単価が高く、利益が少ない。（職別工事業）
- 売上は若干の増加だが、想定外の設備投資などがあり、トータルでは前期と変わらない。（造園業）
- 市役所からの受注数は不変だった。（造園業）
- 前年度比でありあまり変わりはないが、年明けに2名ほど採用を予定している。（電気工事業）

[来期の業況について]

- 民間工事の受注を増やし、利益を確保したい。衆議院選挙による受注減を懸念する。（一般土木工事業）
- まだ予定は分からないが、例年規模の受注を見込む。（一般土木工事業）
- 受注件数の確保が難しく、厳しい状況を予想する。（一般土木工事業）
- 人材不足の状況が続く。（一般土木工事業）
- 人材不足が課題だ。（一般土木工事業）
- 当期と変わらない受注状況が予想される。（一般管工事業）
- 受注の減少を見込む。（設備工事業）
- 冬期はアルミサッシの工事がほぼないため、売上は減少する。（職別工事業）
- 受注数は変わらないと思われる。（造園業）

市内企業倒産状況

2024年10月~12月

負債1千万円以上、東京商工リサーチ調べ

倒産件数は0件、前年同期比減少
負債総額は0円、前年同期比減少

	倒産件数	負債総額
	<u>0件</u>	<u>0円</u>
前年同期比	件数 -2件 (前年同期 2件)	負債 -9,200万円 (前年同期 9,200万円)
■7月 なし		
■8月 なし		
■9月 なし		

市内建築確認申請受付件数・新設着工住宅戸数状況

2024年10月~12月、小樽市建設部調べ

建築確認申請受付件数は45件、前年同期比増加
新設着工住宅戸数は33棟58戸、前年同期比減少

	建築確認申請受付件数	新設着工住宅戸数
	<u>45件</u>	<u>33棟58戸</u>
前年同期比	件数 +1件 (前年同期 44件)	戸数 -1棟+24戸 (前年同期 34棟34戸)
※変更確認又は変更通知を除く。		